

# 四日市大学社会連携報告書



平成 24 年度版



# 目次

---

## はじめに

### 1. 地域と連携する授業

- 1-1 経済学特殊講義（経済学部）
- 1-2 経営学特殊講義（経済学部）
- 1-3 環境特殊講義（環境情報学部）
- 1-4 まちづくり研究（総合政策学部／総合政策特殊研究 a）
- 1-5 地方議会論（総合政策学部／政治・行政論 c）
- 1-6 NPO論（総合政策学部／政治・行政論 i）
- 1-7 食とまちづくり（総合政策学部／総合政策特殊研究 b）

### 2. 高大連携

- 2-1 環境情報学部の高大連携授業
- 2-2 総合政策学部の高大連携授業
- 2-3 3学部共同の高大連携授業
- 2-4 東日本大震災救援活動と学校間連携

### 3. 社会づくり・地域活性化活動

- 3-1 多文化共生社会の実現
- 3-2 高校野球部メンタルサポート活動
- 3-3 四日市とんてき協会

### 4. 学生による地域活動

- 4-1 Aプロ（北勢線あるけオロジー）
- 4-2 MovieZoo
- 4-3 ETV よっかだい
- 4-4 よっかだいエコ活動
- 4-5 学生の自発的な地域連携活動を促進するプロジェクト
- 4-6 四日市大学学生ボランティア部
- 4-7 地パト（四日市大学地域パトロール）
- 4-8 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

### 5. 生涯学習・公開講座

- 5-1 四日市大学コミュニティカレッジ
- 5-2 みえアカデミックセミナー
- 5-3 四日市大学公開講座
- 5-4 四日市市民大学

5-5 履修証明プログラム

5-6 社会人を受け入れる教育プログラム

## **6. 調査研究**

6-1 四日市大学研究機構 関数学研究所

6-2 四日市学研究会

6-3 十四川環境保全活動

6-4 鈴鹿山脈ブナ林調査（四日市大学研究機構・サステイナビリティ研究所）

6-5 モンゴル国ウランバートル市の環境リーダー育成事業

## **7. 四日市大学に事務所を置くNPO等**

7-1 NPO法人市民社会研究所

＊NPO法人四日市NPO協会

＊NPO法人みえNPOネットワークセンター

＊一般財団法人ささえあいのまち創造基金

7-2 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

7-3 四日市大学自然環境教育研究会

7-4 四日市東日本大震災支援の会

7-5 メディアネット四日市

## **8. 今後への展望**

8-1 四日市大学社会連携センターについて

**おわりに**

**資料編 学外委員会での活動（委員会名・役職名のリスト）**

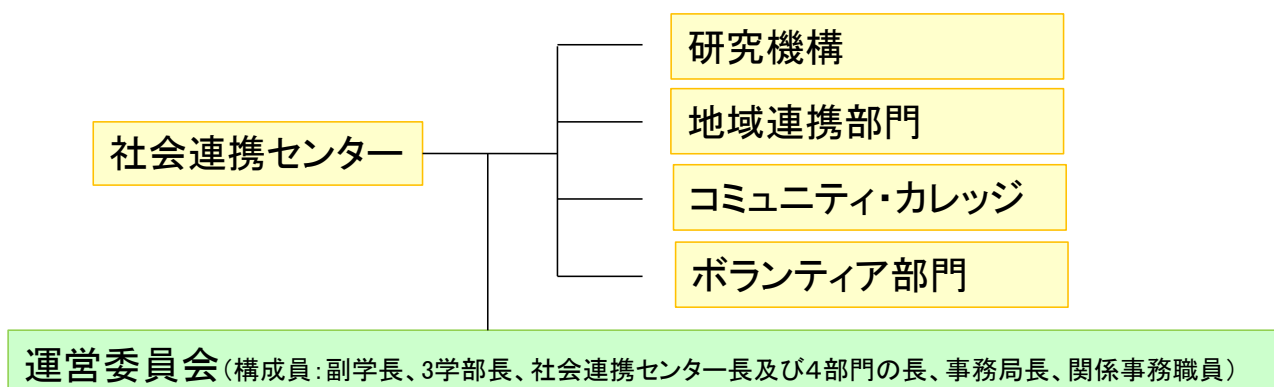
**付録 平成25年度後半の四日市大学地域連携行事予定**

## はじめに

20世紀後半が都市の時代であったとすれば、21世紀の現在は地域の時代への移行期とすることができるとでしょう。地方分権という言葉が政治の世界で飛び交い、地域独自や田舎の視点による社会作りが見直され、それが成長の飽和した日本社会を救う鍵と考えられるようになってきました。このような中で、大学の社会に対する役割も変容せざるを得ず、特に地方の大学は従来の研究教育一辺倒から、地域連携・貢献も同程度かそれ以上に重視という方向に急速に舵を切り始めました。

公私協力型大学として設置された四日市大学は、従来から地域連携・貢献を目指し、公開講座やコミュニティカレッジ、地域との共同研究等の様々な活動を行って参りました。しかし、大学内の複数の組織が個別に対応してきたこともあり、大学としての一体感を学外に十分に示せない面もありました。

こうした中で、四日市大学は平成24年度末に社会連携センター（図）という大きな組織を学内に設置することを決定しました。大学に教育を統括する教学部と、社会連携活動と研究を統括する社会連携センターという2本柱を作ったこととなります。今後、社会連携センターは社会連携活動の企画・運営・報告を行うとともに、社会連携活動に関する学外との窓口となります。



四日市大学社会連携センターの組織図

社会連携センターは研究活動を担う研究機構、地域連携活動全般や大学からの情報発信を担う地域連携部門、生涯教育・市民教育を担当するコミュニティカレッジ、ボランティアの派遣を担当するボランティア部門から構成されます。このボランティア部門は、希望する教職員と学生を登録して、地域の要請に応じて派遣する組織で、近い将来、ボランティアセンターと名称を変更する予定です。

社会連携活動の幅は広く、学外の皆様が正課授業に参加できる開放講義や高大連携授業なども含まれており、これらは教学部や入試部門と協力して進めて参ります。

多くの皆様からご意見・ご指導をいただきながら、地域に役立つ活動を展開して参りたいと考えております。四日市大学の社会連携活動へのご理解を、どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

社会連携センター地域連携部門担当  
環境情報学部教授 千葉 賢

# 1. 地域と連携する授業

## 1-1 経済学特殊講義（経済学部）

### 活動の目的と経緯

経済学特殊講義は経営学殊講義と1年交替で開講される講義で、平成7年度に開講し、平成23年度で第9回目となりました。この講義では、その時々話題となっている問題について、その分野の専門家や第一線で活動している方々をお招きし、通常の事業では学ぶことができない「経済の今」を体感する講義を行っています。直接には本学の学生向けの講義ですが、学生だけではなく広く一般の方の来聴も歓迎しています。実際に今会社を経営しておられる方や、退職した方で今までの自分の会社員としての人生について振り返って考えるための糸口を得たいといった方など、毎回多くの来聴者があり、熱心に講義を聴いておられます。学外の方はすべての講義を聴いていただく必要はなく、希望する講師の回の講義を選んで聴いていただけます。資料をお渡しする場合があります、その準備の都合上事前の申し込みが必要です。

### 活動内容と実績

平成25年度の経済学特殊講義のテーマは「地域における社会保障と教育」です。社会保障をとりまく環境は非常に厳しい状況にあります。長引く経済の低迷、デフレの長期化などから、税収が大幅に落ち込んでいます。一方で、人口の高齢化により、年金・医療などの社会保障給付は増加しています。

高齢者、高齢期の問題だけではなくありません。近年は、「人生前半の社会保障」という言葉も聞かれます。雇用が安定し、家族の基盤がしっかりしている時期には、生活上の困難は退職後に現れることが多いでしょう。しかし、現在では現役世代の雇用が不安定となり、生活リスクが高齢期以外にも広く及んでいます。このような状況の中での社会保障や教育のあり方について学際的な観点から検討したいと思います。

平成25年度に予定している講義は下の通りです。

		日程	テーマ	講師
経済学 特殊講義A (前期)	第1回	4/10	オリエンテーション	
	第2回	4/24	医療と介護派遣	和田康紀(三重大)
	第3回	5/8	社会保障と財源	別府孝文・先浦宏紀先生 (三重銀総研)
	第4回	5/22	働く場の法律と企業が新卒者に求める姿	三重労働局関係各部担当者
	第5回	5/29	現代の貧困問題と福祉国家の課題 ～英国福祉国家変遷史の視座を中心に～	深井英喜先生 (三重大)
	第6回	6/5	「児童福祉と地域～児童虐待の急増からみえるもの」	鈴木聡先生 (中勢児童相談所長)
	第7回	6/26	「障害・障害者にとって地域とは何か」 ～共生・共同・連帯から考える～	脇田愉司先生 (三重短期大学非常勤講師)
	第8回	7/3	「生活保護バッシングと社会保障一体改革」 ～貧困・不平等から地域・現場を考え	脇田愉司先生 (三重短期大学非常勤講師)

			る～	
経済学特殊講義B (後期)	第1回	9/18	オリエンテーション	
	第2回	9/25	児童文学に見る子どもの姿	谷崎智子(四日市大学経済学部)
	第3回	10/9	子どもの教育、福祉、人権(1)	小森久衛(四日市大学経済学部)
	第4回	10/23	子どもの教育、福祉、人権(2)	小森久衛(四日市大学経済学部)
	第5回	10/30	国際社会における児童福祉発達の歴史	李修二(四日市大学経済学部)
	第6回	11/13	子どもの自尊感情・自己肯定感の重要性	李修二(四日市大学経済学部)
	第7回	12/4	学校とジェンダー(ワークショップ)	柴田啓文(四日市大学経済学部)
	第8回	12/11	職場とジェンダー(ワークショップ)	柴田啓文(四日市大学経済学部)

## 今後の計画

平成 27 年度からは「経済経営学科」への学科統合により経済経営学特殊講義として模様替えを計画しています。

●.....●

**担当部門** : 四日市大学経済学部

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : [kyomu@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:kyomu@yokkaichi-u.ac.jp)

## 1-2 経営学特殊講義（経済学部）

### 活動の目的と経緯

経営学特殊講義は経済学特殊講義と1年交替で開講される講義で、平成8年度に開講されて以来、平成24年度が9回目でした。

この講義の目的は生きた経営を学ぶことです。学外から実際に会社経営に携わっている経営者や会社経営の実務面に詳しい知見を持っている専門家の方を講師としてお招きし、より実践的な側面の講義をしていただきます。それによって普段はなかなかふれることのできない貴重な体験談や実務的な知恵に接することができます。

### 活動内容と実績

平成24年度は下のような講義を行いました。

前期	第1回	4月25日	宝印刷株式会社顧問 谷合孝昭氏
	第2回	5月9日	錦見鑄造株式会社代表取締役社長 錦見泰郎氏
	第3回	5月23日	森欽窠業株式会社代表取締役会長 森純孝氏
	第4回	6月6日	元J:COM湘南社長 桜井隆氏
	第5回	6月13日	株式会社佐野鉄工代表取締役 佐野明郎氏
	第6回	6月27日	株式会社ハツメック代表取締役 服部一彌氏
	第7回	7月11日	ジェイシーアイエス代表取締役 福西裕氏
後期	第1回	9月26日	日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏
	第2回	10月10日	株式会社くじラボ代表取締役 市川さつき氏
	第3回	10月24日	平松産業株式会社代表取締役 平松俊範氏
	第4回	11月7日	ローム顧問（元村田製作所広報部長） 大島幸男氏
	第5回	11月14日	株式会社小林機械製作所代表取締役社長 森十九男氏
	第6回	11月28日	株式会社東海テクノ代表取締役社長 市田淳一氏
	第7回	12月12日	IMSアセットマネジメント代表取締役 清水秀和氏

### 今後の計画

平成27年度からは「経済経営学科」への学科統合により経済経営学特殊講義として模様替えを計画しています。

**担当部門** : 四日市大学経済学部

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : [kyomu@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:kyomu@yokkaichi-u.ac.jp)



## 1-3 環境特殊講義（環境情報学部）

### 活動の目的と経緯

環境分野で各地域において活動している人たちを講師として招聘し、本や雑誌では知ることが難しい現場における最新情報を得ることを目的として本講義を開催しています。

平成 24 年度前半は四日市公害や我々の身近な場所で発生した環境汚染などを話題とし、後半は現在企業で行われている環境技術を紹介することを主眼として行いました。

一般市民も自由に聴講できる公開授業となっていることから、37 名の聴講申込みがあり、常時 15 名～20 名の参加者がありました。

### 活動内容と実績

環境特殊講義は前期の毎週火曜日 3 限目（13:00～14:30）に実施しました。講義の内容は以下の通りです。

日程	講師	テーマ
4 月 10 日	環境情報学部教授 栗屋かよ子氏	公害と環境問題
4 月 17 日	東産業社会事業部 榊枝正史氏	四日市公害判決から 40 周年を迎えて
4 月 24 日	弁護士 郷成文氏	四日市公害訴訟の歴史的意義
5 月 1 日	四日公害原告患者 野田之一氏	公害患者に学ぶ
5 月 8 日	四日市公害を記録する会 澤井余志郎氏	四日市公害を記録してきて
5 月 15 日	処分場全国ネット代表 吉川三津子氏	廃棄物問題の現状
5 月 22 日	元化学会社技術担当役員 米屋倍夫氏	三重県ガス化溶融炉の教訓
5 月 29 日	NPO 法人チェルノブイリ救援・中部 河田昌東氏	放射能汚染下でどう生きるか
6 月 5 日	アメリカンパテントサービス・顧問 坂井誠氏	世界の環境と我々の生活
6 月 12 日	㈱三菱テクノリサーチ・シニアコンサルタント 城ノ口隆氏	環境コンサルの概要と環境保全における意義
6 月 19 日	横浜国立大学・特任教授 堀雅宏氏	大気汚染とオゾン層破壊
6 月 26 日	三重中央開発㈱・課長代理 大西健氏	廃棄物リサイクルの現状と課題
7 月 3 日	アクトシステム㈱・代表取締役 平田 隆幸氏	水処理技術における施設管理
7 月 10 日	元三重県産業廃棄物協会・事務局長 畑中幸市氏	産業廃棄物処理の現状と課題
7 月 17 日	アルテ・シェンツァ・代表 吉見 勝治 氏	バイオテクノロジーの環境技術

### 今後の計画

次年度以降も同講義を継続し、学内者はもとより学外者に対しても環境問題を実感できる内容の濃い講義を計画していきたいと考えています。

**担当部門** : 四日市大学環境情報学部

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 1-4 まちづくり研究（総合政策学部／総合政策特殊研究 a）

### 活動の目的と経緯

2001年の発足以来、総合政策学部は「まちづくり」を学部の中心テーマに掲げてきました。これを象徴するように、「まちづくり研究」は地域と連携した授業として、学部発足時から一貫して地域の方々にも開放して開講してきています。この授業は、四日市市の行政各部署の職員の方々を講師に、四日市市の総合計画、財政、福祉、環境などの諸分野を通常の授業として15回にわたって学ぶものです。四日市大学は「公私協力型大学」として、設立当初から四日市市と強い協力関係をもっていますが、この授業もその一つの表れということができます。

### 活動内容と実績

この授業は、毎年大学側で講義計画を作成し、それに基づいて四日市市の企画担当部署を窓口、市内各課に呼びかけて講師を決定します。各講師は忙しい仕事の合間をぬっての講義となりますが、学生に向けてわかりやすい講義をしていただいています。

平成21年度からは、3期にわたって市長を務められた井上哲夫氏に、「まちづくりと市長の役割」と題する講義をご担当いただいています。「まちづくり研究」には毎年一般の市民の方が受講されていますが、井上氏の講義の回は、教室がいっぱいになるほどの多くの市民の参加があります。

### 今後の計画

平成24年度の授業内容は下記の通りですが、今後はさらに四日市市の姿が浮き彫りになるよう、内容構成を変化させていきたいと考えています。

	日 時	内 容	担当者（所属・役職・名前）
1	9/18（火）	まちづくり研究概論（1）	四日市大学総合政策学部 教授 松井真理子
2	9/25（火）	まちづくり研究概論（2）	四日市大学総合政策学部 教授 松井真理子
3	10/2（火）	四日市市の政策推進	政策推進部 政策推進監 伊藤勝美
4	10/9（火）	四日市市の財政	財政経営部財政経営課 課付主幹 田中康資
5	10/16（火）	四日市市の都市計画	都市整備部都市計画課 課付主幹 伊藤睦浩
6	10/23（火）	四日市市の広報	政策推進部広報広聴課 主幹 堀田智恵美
7	10/30（火）	四日市市の危機管理	危機管理監危機管理室 主幹 松田厚司
8	11/6（火）	四日市市のごみ処理対策	環境部生活環境課 主幹 前川 篤
9	11/13（火）	四日市市の福祉（生活保護）	社会福祉事務所保護課 保護第3係長 坂口拓也
10	11/20（火）	四日市市の商業と中心市街地対策	商工農水部商業勤労課 主幹 山口孝文
11	11/27（火）	まちづくりと市長の役割	元四日市市長 井上哲夫
12	12/4（火）	四日市市の消防と救急救命	消防本部消防救急課救急救命室 室付主幹 小住秀樹
13	12/11（火）	四日市市の観光	商工農水部観光推進室 室長 岡田良浩
14	1/15（火）	四日市市の多文化共生	市民文化部文化国際課多文化共生推進室 室長 横山正純
15	1/22（火）	四日市市の市民協働	市民文化部市民生活課市民活動安全係 係長 堤 佳功

担当部門：四日市大学総合政策学部

連絡先：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：[mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 1-5 地方議会論（総合政策学部／政治・行政論 c）

### 活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部では、夏季の3日間の集中講義として、議員や議会に関係の深い皆さんを講師に招き、現場の最前線のお話を伺うことを通じて、議会や議員についての基礎的な知識を身につけると共に、今日における地方議会の意義を理解する公開授業を行っています。

三重県議会は、議会改革では日本のトップランナーであり、地元四日市市議会も積極的な議会改革に取り組んでいます。このような動きを、議員や関係者から直接学ぶ機会はきわめて貴重なものであり、内容の濃さとともに受講者から好評を博しています。

### 活動内容と実績

平成24年度は、7月23日（土）～25日（月）に開催しました。

1日目は「地方議会のしくみと議員活動」をテーマに、「議員の仕事の実際」について、三重県議会の石田成生議員、四日市市議会の藤井浩治議長に、具体的な講義をしていただきました。2日目は「市民の立場からの議会」をテーマに、住民と議会を結ぶ仕組みとその活用について、NPOであるK&M代表の中山美保さんと議会モニターを務めている四日市大学学生が事例発表を行ったほか、「市民必携@議会のトリセツ」を発行された、まだだ市民情報センター代表の卯月慎一さんにも御講義をいただきました。また、「三重県の女性議員の状況」について、三重の女性史研究会の佐藤ゆかり事務局長にもお話いただきました。3日目は「議会改革」をテーマに、四日市市議会から加納康樹副議長、三重県議会から議会改革推進会議の三谷哲央議長に、迫力ある講義をいただきました。

### 今後の計画

これまで夏の集中講義として行ってきましたが、学生が直接議会の活動に参加できるよう、今後は通常の授業期間に行いたいと考えています。



四日市市議会 藤井浩治議長による講義

担当部門：四日市大学総合政策学部

連絡先：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：[mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 1-6 NPO論（総合政策学部／政治・行政論ⅰ）

### 活動の目的と経緯

総合政策学部の「NPO論」の授業は、一般の方が参加できる本学の履修証明プログラムのうち、「四日市学」「地域デビュー支援」の2つのプログラムに位置付けられています。NPOは主体的に社会課題の解決に取り組む市民団体ですが、NPOを知らない学生にとっては、通常の講義だけではなかなか理解が困難であり、実際にNPO活動をしている方々から話を聴くことが効果的であると判断し、平成24年度、初めての試みとして、地域のNPOの方々に授業に参加していただくことにしました。このような趣旨で市内NPOに参加を呼びかけたところ、多くの団体から希望が寄せられ、お断りする団体も出るほどでした。

### 活動内容と実績

平成24年度は、6月から7月にかけて、7団体に講義をしていただきました。熱い思いで活動する方々の現場から話は説得力があり、学生はNPOに対する理解を深めることができました。

- 6月1日（金） 太陽の宴実行委員会（若者による大規模な音楽イベントを毎年実施）
- 6月8日（金） グリーンボランティア「森林づくり三重」（森林の伐採等の管理などを実施）
- 6月15日（金） NPO法人障害者支援グループピラミッド（知的障害がある人を支援）
- 6月22日（金） NPO法人とわのそら（貧しい人のための葬儀を企画・実施）
- 6月29日（金） NPO法人四日市ウェルネス倶楽部（スポーツを通じた健康づくり）
- 7月6日（金） NPO法人愛ママズIT倶楽部（家庭にいる女性にIT講習を実施）  
NPO法人四日市男女共同参画研究所（DV被害女性のための緊急資金援助等）

### 今後の計画

予想以上の効果が得られたことから、来年度以降も継続して実施したいと考えています。



NPO法人障害者支援グループピラミッドによる手話コーラス聴く学生たち

**担当部門**：四日市大学総合政策学部

**連絡先**：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：[mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 1-7 食とまちづくり（総合政策学部／総合政策特殊研究b）

### 活動の目的と経緯

近年、食文化が、まちづくりとの関係から注目されるようになってきています。いわゆる「名古屋めし」で観光客を呼べるようになった名古屋市や、フードバレー構想を掲げてまちづくりを推進している富士宮市など、多くのまちで、食文化がまちづくりに一役買うようになってきています。

本学の関係でも、2008年に設立された四日市とんてき協会の代表を総合政策学部教授の小林が務めていますし、学生たちの中にも、食によるまちおこしなどの活動に参加する者も出てきました。

そこで総合政策学部では、食文化を通じてのまちづくりの可能性について学ぶ科目を、2011年度、開設しました。この科目では実際に活動に取り組んでいる地域の方々を講師にお迎えして、取り組みについてお話を伺うとともに、活動の現場に学生がスタッフとして参加する実習も行っています。

学生たちが、まちづくりの現場を経験することで、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけ、将来、まちづくりの担い手として地域に貢献できるように育っていくことを目的としています。

### 活動内容と実績

2012年度は、県内のそれぞれの地域で食を通じたまちおこし活動に取り組んでいる四日市とんてき協会、亀山みそ焼きうどん本舗、津ぎょうざ協会の方々に、講師として登壇いただきました。また、10名以上の学生が、四日市とんてき協会のスタッフとして、北九州市小倉北区で行われた第7回B-1グランプリに参加し、地域の方々とともに、四日市というまちの売り込みに汗を流しました。

参加した学生のうち今春卒業した学生の多くは、厳しい就職戦線の中でも早々と内定を獲得しており、こうした経験を経てきた学生が地域で高い評価をいただくという効果も、挙がってきています。

### 今後の計画

2013年度も、引き続き学外から講師を招くとともに、B-1グランプリ等への学生の派遣も継続し、幅広い観点から、食とまちづくりについての理解と経験を深められるよう、工夫していく予定です。



B-1グランプリでスタッフとして頑張る学生たち

**担当部門**：四日市大学総合政策学部

**連絡先**：総合政策学部准教授 小林慶太郎 電話：059-340-1923 メール：keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

## 2. 高大連携

### 2-1 環境情報学部の高大連携授業

#### 活動の目的と経緯

高大連携授業は、高校では学べない大学教員の専門分野の話を通じて、高校生への社会への関心を高めたり、大学への興味を促したりすることを目的としています。環境情報学部は非常に早くから高大連携授業を手掛け、多くの高校と協定等を締結して活動を進めてきました。社会連携が本来の目的ですが、授業を通じて本学を知り、進学してくる高校生もいます。学生確保という面でも大切な活動です。

#### 活動内容と実績

入試広報室を通じての出張講義や、教学部を通じての高大連携授業を除く学部独自の活動は次の通りです。

8月 サマースクール

環境専攻：四日市市少年自然の家に1泊しての自然観察会・環境研修、高校生21名が参加

メディアコミュニケーション専攻：本学スタジオでのプロモーションビデオの制作、高校生15名参加

9月 三重県立桑名西高校の環境クイズ大会への協力

10月 三重県立飯南高校で「現代の環境問題（高橋教授）」の講義実施。高校生15名が参加。

11月 愛知県立海翔高校で三俣池環境調査（水質、生物調査）を実施。環境コースの高校生約15名が参加



環境専攻のサマースクールの様子



海翔高校での三俣池環境調査の様子

#### 今後の計画

平成24年度も積極的に高大連携活動を展開する予定です。

**担当部門** : 四日市大学環境情報学部

**連絡先** : 環境情報学部教授 武本行正 電話 : 059-340-1621 メール : [takemoto@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:takemoto@yokkaichi-u.ac.jp)

## 2-2 総合政策学部の高大連携授業～1年生ゼミへ北星高校生の参加

### 活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部と北星高校との連携は、北星高校が四日市北高校であった時代から始まっています。北星高校は生徒の発達支援の観点から大学との連携授業に熱心に取り組んでおられ、当初は総合政策学部のゼミによる中心市街地の活性化活動への参加が中心でした。平成17年度からは、1年生の基礎ゼミに参加し、大学生と一緒に1年間学んで、高校の単位修得とする形式になりました。

北星高校では授業は生徒の選択制なので、毎年大学に来る生徒数は変化しますが、四日市大学から比較的近いこともあり、毎年数名の生徒さんが担当の先生と一緒に大学に通い、大学生と楽しく交流しながら成長しています。

### 活動内容と実績

総合政策学部の1年生のゼミは、前期はプレゼンテーションのトレーニングとレポート作成、後期はゼミ対抗ディベートを通じた総合的な学習を行います。総合政策学部では近年スポーツ推薦で入学した学生が増加していることもあって、学生のコミュニケーション力が向上しており、学生たちは高校生をゼミの一員として自然に受け入れています。特に後期のディベート大会では、高校生の活躍がめざましく、毎年重要な役割を果たしてくれています。

平成24年度は受講者が少なく、実施しませんでした。

### 今後の計画

これまで高大連携によって総合政策部で学んだ高校生の中から、四日市大学に進学した学生もかなり出てきました。彼らの多くは、大学での授業に人一倍前向きに臨んでおり、入学後の成長が著しいという傾向がみられます。

今後も北星高校との連携は継続していきます。北星高校の学校評価委員長もこれまで総合政策学部教員が務めてきており、生徒の大学での授業参加に留まらず、多面的な高大連携が期待されます。



高校生が参加する総合政策学部1年生のゼミ対抗ディベート大会（平成23年度）

**担当部門**：四日市大学総合政策学部

**連絡先**：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：[mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 2-3 3 学部共同の高大連携授業

### 活動の目的と経緯

四日市大学では学部ごとの高大連携事業（授業）に加えて、教学部教学課がとりまとめて実施する3学部共同の高大連携（授業）を実施しています。昨年度に引続き暁高等学校といなべ総合学園高校を対象に実施しました。

### 活動内容と実績

○私立暁高校（3年制）

「総合的な学習の時間」を利用し、大学の教育・研究内容への理解を深めてもらう活動として実施。

◇1年生対象 大学見学会及び研究室訪問（10月31日）

学部	担当者	専門・話題など
経済	池田 幹男 准教授	情報科学・情報工学
	富田 与 教授	国際政治経済学
	永井 博 准教授	日本近代文学
	片山 清和 准教授	情報科学・情報工学
	デイビッド・ダイクス 教授	ドイツ文学・英語教育
	小森 久衛 教授	教育学・教育哲学
環境情報	牧田 直子 准教授	生態高分子化学・生物物理学
	千葉 賢 教授	環境学・情報教育
	関根 辰夫 准教授	音響技術
総合政策	岩崎 恭典 教授	総合政策学・行政学・地方自治論
	松井 真理子 教授	市民活動・NPO論・市民教育
	小林 慶太郎 准教授	地方自治論・行政学・地域政策研究

◇2年生対象 高大連携授業（2月7日・14日・21日の3週連続授業）

クラス	講義テーマ	担当者
A	国際経済を考える	経済学部 デイビッド・ダイクス 教授、鶴田 利恵 准教授、富田 与 教授
B	四日市の発展とエネルギー そして環境	環境情報学部 武本 行正 教授、新田 義孝 教授、高橋 正昭 教授
C	政治 と まちづくり	総合政策学部 小林 慶太郎 准教授
D	メンタルトレーニング	総合政策学部 若山 裕晃 准教授



○県立いなべ総合学園高校

キャリア学習の一環として大学内容の理解と進路決定へのモチベーションを高めるため実施。

◇3年生対象 連携授業「総合科目」(4月26日～11月8日の期間に7回)

テーマ	担当者①	担当者②
異文化理解	経済学部 柴田 啓文 准教授	環境情報学部 北島 義信 名誉教授

◇1年生対象「職業別説明会(販売・サービス系の仕事)」(5月9日)

テーマ	担当者
プレゼンテーション方法についての指導	経済学部 岩崎 祐子 教授

◇2年生対象「進学のための分野別模擬授業」(11月2日)

分野	担当者
文系	経済学部 牛島 謙 准教授
理系	環境情報学部 田中 正明 教授

◇2年生対象「大学見学(研究室訪問)」(11月9日)

学部	研究室
経済学部	小森 久衛 教授、池田 幹男 准教授、藤本 義昭 准教授
環境情報学部	栗屋 かよ子 教授、播磨 良紀 教授、武本 行正 教授、エリック ブレイ 教授、田中 伊知郎 教授
総合政策学部	都島 功 教授、中西 紀夫 教授、若山 裕晃 准教授

## 今後の計画

実施体制の見直しを進めながら、今後も引続き高大連携事業を積極的に実施する予定です。

**担当部門** : 四日市大学教学課

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : stsec@yokkaichi-u.ac.jp

## 2-4 東日本大震災救援活動と学校間連携

### 活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学が中心となって設立されました。学生・教職員・一般市民とともに東北で災害ボランティア活動を行っています。目的は、被災地の復旧・復興と心のケアにあります。この活動には、三重県の若者にできるだけ多く参加してもらい、ともに被災者にいつまでも寄り添っていくことが重要だと考えています。被災地では「忘れられているんじゃないだろうか」とか「もう他人事になってきている」という声をよく聞きます。復興までは、まだ何年もかかると思います。現地では、学生の活動を本当に喜んでくれます。まるで孫になったようにお年寄りと絆を結び、お兄さんお姉さんのように被災した子供たちと遊びます。

また、予想される東南海地震において、東海地方において域内共助がスムーズに進むためには、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の学生たちと交流することも大切なことです。そこで支援の会では、三重県内の大学や高校に呼びかけを行い、現地での支援活動をしています。また、現地の大学・高校にも呼びかけを行い、防災・支援に関するワークショップを開催したり、一緒にボランティア活動を行います。

### 活動内容と実績

2011年の夏休みまでは、ガレキ撤去・ドロかきなどを中心に、延べ9日240名のボランティア派遣を行いました。2012年の3月には、三重県内から3つの高校、四日市大学を含む3つの大学が連携し、宮城県東松島市に出かけました。午前中は、三重県の6つの学校と、宮城県の2つの高校・2つの大学と支援のあり方について考えるワークショップを開催し、仮設住宅での交流についても協働で行いました。また、これらの活動を、三重県内の地域のイベントや集会・講演会で市民に伝える活動もしています。2012年度は、宮城県東松島市内の仮設住宅で交流促進のためのイベントを開催しました。4月には四日市市と協働で鷹来の森、6月には四日市看護医療大学中心に赤井地区市民センターで小規模仮設の皆さんを集めて交流会、8月には矢本運動公園仮設、12月にはひびき工業団地仮設、3月にはグリーントウン仮設で、それぞれ交流促進のイベントを開催しました。また、10月には四日市市内の水害被害を受けた地域での災害ボランティア活動を行いました。

### 今後の計画

支援の会として、定期的に宮城県東松島市の仮設住宅での交流イベント、学校間連携事業を開催していきます。その際、三重県内の高校生・大学生にも参加を呼びかけ、学校間の連携を深めていきたいと考えています。交流イベントは、集会所で足浴や子供との遊び交流、お茶会などを行っています。また、三重県の防災に高校生・大学生が貢献できる仕組み作りに、行政と連携しながら取り組む計画です。

<2012年度に参加した学校>

三重県の大学：四日市大学・四日市看護医療大学・高田短期大学

三重県の高校：暁中学校高等学校・桑名北高等学校・四日市四郷高等学校・メリノール女子学院

宮城県の大学と専門学校：東北学院大学・石巻専修大学

宮城県の高校：石巻北高等学校・石巻西高等学校

**担当部門**：四日市東日本大震災支援の会

**連絡先**：総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：[kito@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:kito@yokkaichi-u.ac.jp)

## 3. 社会づくり・地域活性化活動

### 3-1 多文化共生社会の実現

#### 活動の目的と経緯

多くの外国人の方が日本人と共に生活する日本社会において、「多文化共生社会」の実現は重要な課題です。しかし、学生のうちにこの問題について真剣に考える機会が多いとは言えません。

そこで本学では、そのような機会を学生及び地域の皆様に提供すべく、平成 22 年度より「多文化共生社会を考える」プロジェクトを実施しています。参加者を学内外から広く募り、より多角的な視点から意見交換を行うことで、参加者の啓発と在学生の教育との両方を実現しています。

参加者が「異なる文化背景を持つ人々が共に生きる」ことについて学び、自分自身の問題として考えることにより「多文化共生社会」に対する意識の向上をめざします。さらに、参加者が、大学や地域における未来の国際交流活動のリーダーとしての力と意識を持つことが期待されます。

#### 活動内容と実績

本事業は年度単位で参加者を募り、その活動内容は企画関係者(本学教職員)が相談して、毎年度、新たな内容で実施します。「多文化共生社会」について、情報収集・議論する活動を中心に据え、参加者同士の親睦を深める活動や、ディスカッション・プレゼンテーションの技術を育てる活動も含んで一年間の活動を構成しています。

2012 年度は、学内外から 50 人の参加者が得られ、その出身国は日本を含めて 6 カ国でした。本学教員による勉強会、3 回にわたるディスカッション、懇親を深め地場産業を知るための「万古焼体験」などを実施しました。さらに、フォーラム「多文化共生社会を考えるー海外での生活体験を通してー」も開催し、本学教員による自身の海外体験について講演を聞いた後、「これからの多文化共生社会での生き方」をテーマに意見交換しました。これらの活動を経て、2013 年 1 月 10 日に実施した「四日市大学留学生新春パーティー」の場で、本学学生及び地域の皆様を対象に、一年間の活動をパワーポイントにまとめて発表しました。自分たち自身が地域のために何ができるか考え、「外国人のための情報提供」、「現実の課題は何か」などについて、具体的な報告がありました。

#### 今後の計画

2013 年度は、これまでの活動を生かし、「実際にやってみる」ことをテーマとします。具体的には恒例の「留学生新春パーティー」を学生参加者がすべて企画実施するほか、学内外の様々な場で多文化共生社会を考える活動や、国際交流活動を行います。



万古焼体験



ディスカッションの様子

担当部門 : 四日市大学留学生支援課

連絡先 : 教育学部留学生支援課 電話 : 059-365-6793 メール : [issc@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:issc@yokkaichi-u.ac.jp)

## 3-2 高校野球部メンタルサポート活動

### 活動の目的と経緯

野球は、国民から多くの支持を集める人気スポーツです。特に高校野球は、甲子園球場で行われる全国大会を全試合 NHK が中継することもあるため、より多くの関心を引き起こします。こうした背景により、とすると過剰に勝利だけを目指した、勝利至上主義のクラブ活動が展開される高校は少なくありません。その結果、試合でのプレーにおいて選手に異常な精神的重圧がかかり、本来の実力が発揮できない、あるいは、大きなミスが一生にわたる心の傷となる、といったつらい経験をする高校球児が存在するのも事実です。

こうしたネガティブな出来事をできる限り回避するという点で、スポーツ心理学に関する理論を背景としたメンタルサポート活動は、健全な高校クラブ活動の一助となり得るのではないかと考えます。ある高校野球部員及び指導者を対象として、選手にはメンタルトレーニングの指導、指導者にはコーチングの理論やスキルについての意見交換等の活動を展開します。スポーツ本来の楽しさを体感し、マナーやスポーツマンシップを習得してもらうことがこの活動の主な目的となります。

### 活動内容と実績

平成 24 年 1 月からサポート活動を実施しています。指導者からすべてを指示される活動ではなく、練習メニューを選手たちが自発的に考えるような習慣が整ってきています。また、平成 24 年夏の地方大会では、学校として初めて決勝戦進出を果たしました。

### 今後の計画

今後も引き続きサポート活動を継続していくつもりです。「勝つこと、つまり、甲子園出場がすべてではない」という姿勢で自主性のある人材育成に少しでも貢献できればと考えています。

**担当部門**：総合政策学部

**連絡先**：総合政策学部准教授 若山裕晃 電話：059-340-1904 メール：young-mt@yokkaichi-u.ac.jp

## 3-3 四日市とんてき協会

### 活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

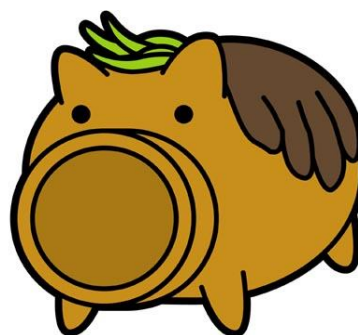
そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、2008年に総合政策学部の小林を代表として、四日市とんてき協会を設立しました。

### 活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。2008年春に試作版を出して以来、毎年「四日市とんてきマップ」を作成しているほか、公認ソースやコンビニ弁当など「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める様々な商品の開発を監修したり、ご当地グルメでまちおこしの祭典「B-1グランプリ」への出展（2010年度から）をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。多くのメディアに取材いただいていることも、発信につながっているのではないかと考えています。

### 今後の計画

2013年度以降も、引き続き「B-1グランプリ」に出展するほか、他の団体との協働も進めながら、積極的に四日市のまちの魅力の発信に努めていきます。



四日市を代表するご当地グルメ「四日市とんてき」 四日市とんてき協会のキャラクター「テキブ〜」

**担当部門** : 一般社団法人 四日市とんてき協会

**連絡先** : 四日市とんてき協会事務局 電話 : 059-343-5405 メール : [tonteki@tonteki.com](mailto:tonteki@tonteki.com)

## 4. 学生による地域活動

### 4-1 Aプロ（北勢線あるけオロジー）（研究機構・流域ルネッサンス）

#### 活動の目的と経緯

Aプロは、2010年12月に経済学部教員と学生により、北勢線沿線の魅力を発見し、それを伝えること目的に結成されました。これまで、学生が自ら歩き、自ら見つけ、自ら伝えることを基本方針に、手づくりを重視した活動を展開して参りました。そうしたなかで、「北勢線の魅力を探る会」、商工会議所などと協力し地域の活動に参画したり、本学主催の行事はもとより「美し国三重」関連の行事等で成果の一部を発表したりしています。

#### 活動内容と実績

2年目となる2012年度は、三岐鉄道北勢線西桑名駅を中心に活動を行いました。西桑名駅から徒歩圏内の楽しめる名所の再発見と「西桑名カルタ」の制作を目標としました。第1回目は、西桑名駅周辺には何があるのかを知るために特徴的なものや楽しめそうな場所を中心に探索と写真撮影を行い、第2回目は桑名駅近くにある大福田寺で行われた節分祭に参加しました。祭りの規模としては小さいものの、地元の方々が沢山集まり盛り上がっていました。豆だけでなくお菓子なども撒かれ、老若男女が楽しめました。祭りの関係者の方々とお話をし、写真を撮り終了しました。第3回目は前回と同じ大福田寺で行われた桑名聖天大祭の1日目に参加しました。山伏神子稚児行列では地元の小学生たちが衣装をまとうて参加し、その姿を収めようと多くの親御さんが集まっていました。柴灯大護摩火渡り神事で火渡りを体験し、写真を撮り終了しました。

第4回目は桑名聖天大祭の2日目に参加しました。伊勢大神楽の写真を撮るために多くの人が集まり盛り上がっていました。第5回目は金魚祭りに参加しました。九華公園の周りが沢山の金魚のモチーフなどで飾られ、金魚のお神輿を子供たちがかついで市内を練り歩き回っていました。祭りを探索し、写真を撮り終了しました。

2012年度	活動内容	日時	場所
第1回	西桑名駅周辺の探索	2012年1月26日	桑名市(三岐鉄道北勢線西桑名駅界限)
第2回	節分祭	2012年2月3日	桑名市(大福田寺)
第3回	桑名聖天大祭	2012年4月1日	桑名市(大福田寺)
第4回	桑名聖天大祭	2012年4月2日	桑名市(大福田寺)
第5回	金魚祭り	2012年5月2日	桑名市(九華公園「鎮国守国神社」)

#### 今後の計画

3年度目となる2013年度は、近江商人と伊勢商人が行き交った八風街道（中山道武佐宿一東海道富田間宿）の街道文化をテーマに田光（菰野）一大矢知、富田（四日市）の地域資源再発見に取り組んでいます。10月のよんよん祭（大学祭）で経過成果のパネル展示を行う予定です。

担当部門 : 四日市大学研究機構

連絡先 : 経済学部教授 富田与 電話 : 059-365-6588 メール : [tomita@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:tomita@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-2 MovieZoo（四日市大学研究機構・流域ルネッサンス）

### 活動の目的と経緯

MovieZoo の活動は、経済学部教員と経済学部・環境情報学部の学生が中心となって行っています。その目的は、北勢地域で活動する文化団体や企業などを学生目線で取材し、自分たちが体験した感動や課題などを動画で表現し、YouTube を通じて世界に発信することです。

本学にはアジアからの留学生も多く在籍しています。一人でも多くの学生達に、北勢地域の素晴らしさや問題点を理解し、地域の発展的な将来像を描き、それにより得たものを卒業論文のテーマや自分の進路を決定するきっかけとして欲しいという思いから、平成 22 年度にこの活動を開始しました。

### 活動内容と実績

平成 24 年度には、まちづくり活動を行う学生が交流する「全国まちづくりカレッジ 2012 in 伊勢」において、伊勢神宮の外宮付近でのフィールドワークを行い、その後、「大学間の広域的交流方法」、「行政との協力方法」などを鈴木知事とともに話し合うフォーラムに参加しました。また、「プレ全国まちづくりカレッジ 2013 in 松本」でも松本市内を散策し、課題を見つけて地域の方々にプレゼンテーションを行い、さらに各大学の日頃の活動を報告する、プレゼンテーションマラソンにも参加しました。

鶴田ゼミの学生と名古屋大学大学院環境学研究科の大学院生との共同ワークショップ（四日市市中心市街地活性化基本計画策定の一環）の様子をメディネット四日市と共同で動画化し、YouTube に発信しました。また、2013 年 2 月 10 日に三重県主催「ベストプラクティスコンテスト&大学・地域連携シンポジウム」に参加し、活動報告を行いました。参加大学は三重大、皇学館大学、四日市看護医療大学、近畿大学工業専門学校など。参加学生は 60 名ほど、一般の方の参加を合わせると 100 名ほどで、学生間での活動交流の広がりのきっかけになりました。

### 今後の計画

昨年度から引き続き千羽鶴の折り方 DVD の「ベトナム語」、「インドネシア語」バージョンを作成する予定です。また、伊賀流忍者博物館、ベトナムでの無農薬の緑茶を生産し日本国内で販売しているアンティ（株）を取材し動画を作成する予定です。



鈴木英敬知事も参加して行われた伊勢のフォーラム



松本でおやきづくりを体験する学生たち

担当部門：四日市大学研究機構

連絡先：四日市大学研究機構 電話：059-340-1927 メール：[yuro@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:yuro@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-3 ETV よっかだい

### 活動の目的と経緯

大学自らの手による地域への情報発信は、これまで公開講座、パンフレット、新聞広告、ホームページ等に限られていました。情報技術の進展や普及により、映像番組等の動画発信も今後は行われるようになります。そのような中、CTYのご協力で、日本では例のない大学発の定期的な番組制作を四日市大学が行うことになり、「世界を見つめ地域を考える・ETV よっかだい」の放送が平成23年10月1日から開始しました。

この番組は本学が取り組む教育研究や地域の出来事と課題などを取り上げて北勢地域の視聴者に提供するもので、社会連携活動の一環です。企画、撮影、編集などの番組作り全般を学生と教員が行います。初めて番組作りを行う者ばかりで最初は戸惑いもありましたが、CTYのご協力で順調に進めることができ、平成23年度に7本を、平成24年度に12本の30分番組を制作することができました。

本番組は大学の社会連携活動を支える強力な道具であるばかりでなく、制作を行う学生達にとっては、授業では学べない貴重な社会経験をできる場になっています。

### 活動内容と実績

平成24年度放送分の番組名と放送時期は次の通りです。

- 4月、「四日市ご当地グルメ・トンテキを探る」（出演：小林教授&本学学生）
- 5月、「水俣環境コンテスト」（出演：新田教授&本学学生）
- 6月、「もっとネット四日市」（出演：本学学生）
- 7月、「四日市周辺大気のNO2一斉調査」（出演：栗屋教授、千葉教授、本学学生）
- 8月、「日本の原子力発電所は再稼働すべきか廃炉にすべきか」（出演：新田教授&本学学生）
- 9月、「田中勝利の気象番組（台風シーズンに備えて）」（出演：本学学生）
- 10月、「伊勢湾海洋調査実習2012」（出演：千葉教授&本学学生）
- 11月、「ミャンマーを探る」（出演：岡教授&本学学生）
- 12月、「2012年環境スクール in オーストラリア」（出演：新田教授&本学学生）
- 1月、「十四川を守る～環境保全と史跡巡り～」（出演：高橋教授&本学学生）
- 2月、「東北災害支援ボランティア」（出演：鬼頭教授&本学学生）
- 3月、「ETV よっかだいの裏側」（出演：本学学生）

### 今後の計画

「ETV よっかだい」の活動は平成25度も継続します。次のチャンネルと時間帯に放送予定です。

◎CTYのコミュニティチャンネル（地上デジタル12ch）

◎月/14:00～、火/15:00～、水/16:00～、木/23:00～、金/9:00～、土/10:00～、日/11:00～

次のサイトに現在放送中の番組の情報や過去番組のアーカイブがあります。

<https://www.facebook.com/Etvykkadai>

**担当部門**：社会連携センター・地域連携部門

**連絡先**：環境情報学部教授 千葉賢 電話：059-340-1620 メール：[chiba@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:chiba@yokkaichi-u.ac.jp)



## 4-4 よっかだいエコ活動

### 活動の目的と経緯

本学はキャンパス内に広葉樹の森が広がり、鳥の声が一年中聞こえる、とても自然環境に恵まれた大学です。学生の力で、この自然を守り、より素晴らしい環境作りを進めるとともに、環境学習や学生の連携を深めることを目的として、平成 20 年 4 月に四日市大学環境活動会議（通称：よっかだいエコ活動）が発足しました。

その後、学生と教員は協力しながら、竹林の整備と竹を利用したイベントの企画、雨水調整池の整備、空地を利用した野菜づくり、学内および周辺のゴミ清掃などを行ってきました。学生メンバーによる地域活動への参加は新聞等のマスコミにも大きく取り上げられ、本学の社会連携の若い旗手として活躍してきました。

しかしながら、現在は発足当時の学生たちが卒業し、発足当時の熱い思いを知らない学生がエコ活を担うようになり、活動が縮小化してきました。今後の展開はわかりませんが、環境活動に関心のある学生も学内に多くいるため、活動を継続し、将来の復活を目指します。

### 活動内容と実績

平成 24 年度の主な活動

4 月 エキサイト四日市バザールに参加し、竹ぼっくり、竹箸などの竹細工教室を出展

7 月 東産業第 10 回環境フェアに参加

### 今後の計画

今後も学生の主体性を大切にしながら、環境保全活動を進める計画です。



エキサイト四日市バザールで、竹細工の教室を出展。イモマンも活躍した。

**担当部門** : 四日市大学環境協働活動会議（よっかだいエコ活動）

**連絡先** : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 : 059-340-1620 メール : [chiba@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:chiba@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-5 学生による地域連携活動を促進するプロジェクト

### 活動の目的と経緯

四日市大学の未来経営戦略推進特別助成金を活用し、平成 22 年度から「総合政策学部学生による四日市大学活性化企画の募集・実施事業」をスタートしました。これは、学生自らが大学の活性化に寄与する活動に参画することにより、四日市大学の魅力を対外的にアピールするとともに、学生の主体性や企画力の向上、社会参加の経験づくり等を図ることを目的とするものです。募集する事業は、主として①四日市大学を対外的にアピールする活動、②四日市大学の学生の実力を向上させる活動、③四日市大学と地域が連携する活動です。総合政策学部教員による審査会を行い、パスした企画には上限 5 万円の補助金があり、学生からの積極的な応募を促進するモチベーションとなっています。

### 活動内容と実績

この事業によって、学生は初めて地域に足を踏み出し、その後の継続的な活動につながっている企画も出てきました。3年目となる「地域パトロール」は、公益社団法人「小さな親切」実行賞や県警からの感謝状をいただきました。

平成 24 年度の企画一覧

企画提案内容	内 容
地域の魅力発信活動	株式会社堀製麺社長にインタビュー。
古美術研究と美術製作	陶芸家を招き、学生、地域の方々と交流しながら陶芸体験。
七宝焼・純銀オブジェ制作体験	七宝焼・純銀オブジェ制作体験。地域の人々と大学内で交流。
まごまごニーハオ	三重団地内の高齢者サロンを訪問し、ゲーム等で交流。
東日本大震災における災害ボランティア派遣&被災者との交流事業	大学生、高校生が東日本大震災における災害ボランティア・交流会を行う。(暁学園、桑名西高校、メリノール高校、四日市看護医療大学、四日市大学)
地域パトロールによる防犯活動	市内あさけが丘と朝日町で月 2 回防犯パトロールやゴミ拾いの実施

### 今後の計画

予算的には今年度で終了ですが、何らかの形で学生の自発的な企画を育てていきたいと考えています。



全教員による審査会で企画のプレゼンをする学生たち

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : [mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-6 四日市大学学生ボランティア部

### 活動の目的と経緯

平成 23 年 1 月、総合政策学部 1 年仁木舞衣子さんと三島彩さんが中心となり、ボランティア部が発足しました。四日市大学の学生によるボランティア部は、これまで存在したことがありましたが、中心となる学生の卒業と共に消滅していたので、再発足ということになります。今回の学生ボランティア部は総合政策学部の学生が中心となっており、自分たちの力を地域のために役立てたいと考える学生が集まって組織しています。

### 活動内容と実績

発足直後に実施した、三重県主催の「子育て応援！わくわくフェスタ」への協力活動は、その後も継続しています。子どもの育ちを支援するNPOからのキャンプの手伝い、障害がある人を支援するNPOからの作業の手伝い、社会貢献人材バンクから運営委員会への参画の依頼、四日市港管理組合から秋のみなと祭りの企画づくりへの参画、三重県からイベント時のゆるキャラの着ぐるみの協力など、実にさまざまな依頼がありました。

外部からの依頼に応じるだけでなく、大学内での自主的なボランティア活動もやろうと、学内の清掃活動にも取り組み始めました。社会を少しでもよくしたいという気持ちが育ってきています。

### 今後の計画

地域から多数寄せられる派遣要請に応じるには、学生数に限界があります。現在のボランティア部としての対応以外に、大学としてさらに組織的な取り組みを計画しています。



地域の子育てNPOでの活動

**担当部門** : 四日市大学総合政策学部

**連絡先** : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : [mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-7 地パト（四日市大学地域パトロール）

### 活動の目的と経緯

各学部割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、2010年度より、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという仕組みを取り入れてきました。この初年度の企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール（通称：地パト）です。学部からの補助は、蛍光色のジャンパー（ユニフォーム）や、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は、2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、現在では10数名の学生が活動しています。

### 活動内容と実績

毎週火曜日、大学の授業が終わった後に、揃いの蛍光色のジャンパー（ユニフォーム）を着て、ゴミ拾いや地域の方への声掛けをしながら巡回しています。また、活動内容を地域の方々にお知らせするために、広報紙「地パトニュース」も発行し配布しています。2012年度は、前年度まで1地域だった活動場所を、2地域に増やしました。

当初は、不審の目を向けてこられた地域の方々にも理解が広がり、2012年5月24日には、その活動の様子が、中日新聞にも取り上げられたほか、7月には、三重県知事が実行委員会会長を務める「美し国おこし・三重」のパートナーグループとして登録されました。8月には、学生たちが企画して地域の方々との流しそうめんによる交流会を行うなど、地域の方々との交流も深まっています。

2013年1月には公益社団法人「小さな親切」運動本部より「小さな親切」実行章を授与され、2月には県警生活安全部長感謝状と防犯協会連合会会長賞を授与される等、社会からの評価も高まっています。



揃いのユニフォームを着て、あさけが丘の住宅地で「地パト」の活動に励む学生たち

### 今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。2013年度は、住民が主体的にパトロール活動を行えるようになった地域からは“卒業”し、また別の地域で新たに活動を展開できればと考えています。

**担当部門** : 四日市大学総合政策学部

**連絡先** : 総合政策学部准教授 小林慶太郎 電話 : 059-340-1923 メール : [keitaro@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:keitaro@yokkaichi-u.ac.jp)

## 4-8 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

### 活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して総合政策学部の小林が呼びかけたことを受けて、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。2010年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

### 活動内容と実績

2012年度は、大学祭で、アンケート調査や「ツナガリ」のPR活動を行ったり四日市市明るい選挙推進協議会との協働での啓発活動を行ったりしたほか、11月の四日市市長選挙に向けて、近鉄四日市駅前で街頭啓発をしたり、若い世代の集まるイベントを通じて、選挙に関心を持っていただこうと、ゆるキャラ選挙の実施に協力したりしました。

こうした学生の活動は、財団法人明るい選挙推進協会や三重県選挙管理委員会などからも、注目・評価いただき、四日市市の『市政白書'12』で紹介いただいたほか、新聞やミニコミ誌、FM局などのメディアでも紹介されました。



ツナガリが協力した、ゆるキャラ選挙のイベント

### 今後の計画

2013年度は、7月の参議院議員選挙に向けた活動のほか、日常的な活動の強化を図っていく予定です。

**担当部門** : 四日市市選挙管理委員会

**連絡先** : 四日市市選挙管理委員会 電話 : 059-354-8269 メール : [senkan@city.yokkaichi.mie.jp](mailto:senkan@city.yokkaichi.mie.jp)

## 5. 生涯学習・公開講座

### 5-1 四日市大学コミュニティカレッジ

#### 活動の目的と経緯

生涯学習は従来、個人的な学習意欲に支えられてきましたが、昨今の学習需要の増大に伴い、高等教育機関として大学には、生涯学習への組織的かつ積極的な関与が求められています。そこで、本学ではコミュニティカレッジにおいて、地域住民の方々に学習機会を提供すべく英会話・パソコンのみならず、絵画・写真等各種講座を学外に開放してきました。

#### 活動内容と実績

コミュニティカレッジの年間スケジュールとしては、各6週間にわたり開講される4-5月・6-7月・9-10月・11-12月・2-3月の講座および、受講生の要望により8月の夏期講座と1月の冬期講座を開講しています。

コミュニティカレッジでは、受講生からの要望に傾注するとともに講師との連絡を密にし、講座運営に反映させています。受講生の多様なニーズや生活パターンを考慮し、夜間講座の設定および旅行や映画に関連付けた語学講座等を開講しています。

年間を通して幅広い年齢層の受講生が来学し、受講生間が切磋琢磨したり、自己研鑽に励む様が見受けられています。

#### 今後の計画

コミュニティカレッジは、講座の新しいあり方を模索し、受講生の自己啓発や地域の生涯学習の振興に寄与するかたちで社会貢献への活路を見出したいと考えています。



2012年度 絵画講座 受講生作品



2012年度 写真講座 受講生作品

担当部門 : 四日市大学コミュニティカレッジ  
連絡先 : 電話 : 059-365-6615 メール : [caeb@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:caeb@yokkaichi-u.ac.jp)

## 5-2 みえアカデミックセミナー2012

### 活動の目的と経緯

みえアカデミックセミナーは2003年に始まりました。「三重県生涯学習振興基本計画」に基づき、生涯学習社会の進展をめざし、県内の各高等教育機関の研究活動を広く県民に紹介し、普段触れることのない各高等教育機関における授業の一端などを県民へ公開セミナーの形式により、学習機会を提供することを目的としています。

当初は、県内6大学で始まったセミナーに短期大学や高等専門学校なども参加し、現在では14の高等教育機関で構成されています。

開講期間は毎年7月より8月までの間で、各高等教育機関の輪番制により講義は行われています。

### 活動内容と実績

本学は経済学部、環境情報学部、総合政策学部の3学部を擁し、多彩な研究者がセミナーに協力してきました。2013年度は総合政策学部 友原嘉彦専任講師が「人生を変える旅」と題して、8月7日(水)13:30より、三重県生涯学習センターレセプションルームにて講演を行いました。聴講者は136名を数え、大変好評でした。

### 今後の計画

四日市大学では2013年4月に社会連携センターが設立され、本学の理念である「開かれた大学」の形をさらに進展させ、市民や県民に対してさらに質の高い生涯教育サービスを提供することを目指しています。

今後は、リタイアした団塊世代の生涯学習教育の場の拡充や、多様な学習機会を提供するため、社会連携センターを中核にこれを推進していく予定です。

みえアカデミックセミナーの問い合わせ先：  
三重県津市一新田上津部田1234  
三重県生涯学習センター  
Tel 059-233-1151 fax 059-233-1155

●-----●  
担当部門 : 四日市大学庶務課  
連絡先 : 電話 : 059-365-6688 メール : [syomu@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:syomu@yokkaichi-u.ac.jp)

## 5-3 四日市大学公開講座

### 活動の目的と経緯

四日市大学公開講座は毎年度、共通テーマのもとに本学の教員を中心に複数の講演を行い、受講された方々に幅広い知識と視野、豊かな感性を身につけていただくことを目的としています。この公開講座は四日市大学が開学されて以来開講されている本学でもっとも古い社会連携活動の一つです。

### 活動内容と実績

2012年度は「日中国交正常化40周年企画—お隣の国、中国を知る—」を共通テーマとして三つの講演を行いました。

今からちょうど40年前の1972年9月29日、田中角栄首相が訪中し、北京で日中国交正常化の共同声明を発表しました。それを記念して10月にはジャイアントパンダのカンカンとランランが上野動物園に送られて来て、多くの日本人がそれを一目見ようと上野動物園に詰めかけました。それから40年、日本と中国は解決すべき問題をいくつか抱えながらも、互いに相手を重要なパートナーとする隣国に成長しています。今回はこのような節目に鑑み、日本と中国を、環太平洋という大きな視点で俯瞰したほか、中国語や観光という、普通とは少し異なった切り口で眺めることにしました。

以下、講演者による要約と参加者の声をいくつかまとめておきます。

#### (A)「観光地としての中国東北地方」総合政策学部講師・友原嘉彦（2012年9月29日（土））

悠久の中国の大地は旅の心が掻き立てられる目的地のひとつではないでしょうか。雄大な自然、歴史を感じる文化遺産、世界中で愛される中華料理、そして、どこか懐かしい人情溢れる青空市場、「世界の工場」と呼ばれ、経済発展の著しい中国ですが、観光地としても魅力がたくさんあります。ここでは中国の中でも、日本と関係の深い東北地方（旧満州）に焦点を当て、その観光的特性について考えて行きます。



#### ☆参加者の声☆

- ・「中国東北地方の特性」という不断は聞けない話が聞けて参考になりました。
- ・現在の日中の状況では困難ですが、良くなったら是非行きたい。
- ・中国旅行に参考になり、中国への旅が楽しみです。
- ・質問にも丁寧に答えていただき、良かった。参考になりました。
- ・タイムリーな企画で大変良かった。

#### (B)「環太平洋時代の日・中・米関係」経済学部教授・富田与（2012年10月13日（土））



日本は、いま、中国の進出と米国の相対的後退に挟まれ、自らの立ち位置を模索しています。「開国」以来、日本は、大国との関係に腐心し、自らの大国化を時に露骨に、時に暗々裏に求めてきました。世界規模で進む途上国の躍進と先進国の停滞は、そうしたモデルの賞味期限が切れかけていることを暗示しています。この講座では、環太平洋からもうひとつ、ラテンアメリカ地域を取り出し、日・中・米の関係に



ラテンアメリカを差し挟みながら、従来の大国中心の国際関係観とは違った視覚から日・中・米の関係を考えてみたいと思います。

#### ☆参加者の声☆

- ・ two as one の意味がよく理解できた。
- ・ 日本として、日本人として考えさせられるよい講座でした。
- ・ 環太平洋の関わりは複雑だが、再考すべき。政治家もこの講座に学ぶとよい。
- ・ 更に掘り下げ、話しを聞きたく興味を持ちました。
- ・ テーマが難しかったが、視点が新鮮で良く理解できた。

#### (C)「中国語への誘い」環境情報学部准教授・加納光（10月27日（土））

不幸な戦争が終結し、新たな日中関係の構築に向け国交を正常化してはや40年、今年、日中国交40周年という節目の年です。中国は、かつての遠い隣国から、近い隣国へと変わり、今や日本の経済発展にはなくてはならない重要なパートナーとして、年々その結びつきを強めています。しかし、そのような状況にありながらも、いまだに中国あるいは中国人との隔たりを感じる日本人は少なくありません。歴史的に多様な中国文化を受け入れ、共通の漢字さえ



使用しているにも関わらず、この状況です。「互いを知ること」、これこそ両者の隔たりを解消させる最前の策です。今回の講座が、中国あるいは中国人との隔たりを取り除くひとつの機会になれば幸いです。

#### ☆参加者の声☆

- ・ 歴史、地理、経済など私たちの生活に深い関わりがあり、今後も聴講したい。
- ・ 観点が大きく、大変参考になった。
- ・ 中国に対する知識不足がこの講座でよくわかり、今後も期待している。
- ・ 講義を聴いて、両国が仲良くなればと思い、政治家に期待したい。

## 今後の計画

2013年度以降も継続する予定です。

**担当部門** : 四日市大学公開講座委員会、四日市大学社会連携センター

**連絡先** : 庶務課 電話 : 059-365-6688 メール : shomu@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-4 四日市市民大学「災害から命を守る、自助・共助・公助」

### 活動の目的と経緯

四日市市では、毎年市民向けに「四日市市民大学」という講座を開講しています。例年、5～8コース程度を企画していますが、その多くは市民企画であり、審査会を経て開講されています。市民大学は公募であるため、講座企画に偏りが生じると、四日市大学が穴埋めをします。2012年度は、地域防災に関連する講座の企画をたのまれました。これを受け、四日市東日本大震災支援の会の経験を踏まえ、市役所の危機管理室、消防、社会福祉協議会など、地域の防災に関係する部署のみなさん、そして東北からは高校生・大学生を講師として招き、震災の経験を語ってもらいました。

### 活動内容と実績

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、われわれ日本人にとって忘れることのできない悲惨な体験となりました。巨大津波は多くの命を奪い、福島第一原子力発電所の事故は広大なエリアを住めないほど汚染しました。阪神淡路大震災やその後に起こった自然災害を通じて蓄積された防災や被災後の対応マニュアルは、ほとんど機能しませんでした。あれから1年以上がたった今、われわれ日本人は何を学び、将来に向けてどのような社会を構築していくべきなのでしょう。講座では、被災地からさまざまな立場の方を招き、具体的に体験を語ってもらいました。

第1回(9/29) 四日市東日本大震災支援の会 ～震災直後から活動は始まった～

講師：学生リーダー 石田沙也佳・尾崎雅(四日市大学総合政策学部学生)

第2回(9/8) 被災地域の若者たちの行動 ～継続的な域内ボランティア活動～

講師：東北学院大学 木村彩香(みまもり隊初代リーダー)

第3回(9/15) 災害ボランティアセンター ～域外からの受援と被災者の心の支え～

講師：岩手県社協職員&四日市社協職員

第4回(9/1) 東日本大震災を経験して ～自分が被災するという事～

講師：宮城県石巻北高校 佐々木優太、石巻西高校 須田郁海、石巻高校 北村潤

第5回(10/6) 四日市市災害対策本部 ～瞬時の判断・対応が求められる行政の最前線～

講師：四日市市危機管理室職員

第6回(10/13) 災害に強い四日市のまちづくり ～命と財産を守るための「絆」とは～

シンポジウム(基調講演；鬼頭浩文 パネラー；大学教員・行政・社協・コミュニティFM・学生)

### 今後の計画

四日市市民大学は、今後も毎年開催されると考えられます。基本的に市民企画を中心に提供する仕組みになっていますので、このような音楽の講座の依頼があることは、十分に予想されます。今回の企画の中に講師の都合で盛り込むことができなかったものがあります。民俗音楽は世界中に無数に存在します。四日市市では、あまり聴く機会のない民族楽器の講座を再度開催できればと考えています。

**担当部門**：コミュニティカレッジ

**連絡先**：総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-5 履修証明プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等の習得を出来るように準備された教育プログラムです。各プログラムの受講総時間数は 120 時間程度になります。修了生には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書（単位や学位を証明するものではありません）が交付されます。

### 活動内容と実績

平成 24 年度は以下の 13 コースを開設しました。

#### ◎3 学部合同開設プログラム

##### ①四日市学プログラム

#### ◎経済学部開設プログラム

①歴史の中の現代経済プログラム、②基礎から学ぶ経済学プログラム、③簿記・会計入門基礎プログラム、④簿記・会計専門中級プログラム

#### ◎環境情報学部開設プログラム

①環境情報学入門プログラム、②情報処理入門プログラム、③情報処理応用プログラム、④環境保全入門プログラム

#### ◎総合政策学部開設プログラム

①地域デビュー支援プログラム、②地域リーダー・スキルアッププログラム、③使える英語プログラム、④社会調査士資格取得プログラム

そのうち以下の 3 コースにて受講生を受け入れました。

### 簿記・会計(上級)プログラム

本プログラムは、簿記会計・財務の専門知識を修得することを目的とする。

講習・科目等の名称	単位	開設時間	時間数	担当	備考
経営財務論	2	後学期木1	22.5	三浦克人	
管理会計論	2	前学期木2	22.5	三浦克人	
税務会計論	2	前学期水2	22.5	沓掛和男	
監査論	2	前学期月3・4	22.5	松脇昌美	隔週
公会計	2	後学期金1	22.5	松脇昌美	
環境・国際会計	2	後学期水1	22.5	沓掛和男	
経営分析論	2	後学期木2	22.5	沓掛和男	
キャッシュフロー会計	2	後学期木4	22.5	沓掛和男	
総時間数			180.0		

## 情報処理応用プログラム

情報処理プログラムでは、IT化された企業業務等処理していく上で必要とされるコンピューター基礎知識と技術を身につける。応用コースでは、入門コースの内容に加えてコンピューターを高度に利用するためのプログラミング技術を学ぶ。

講習・科目等の名称	単位	開設時間	時間数	担当	備考
一般科目	下記6科目から6単位以上を取得すること。				
コンピューター科学	2	前学期木2	22.5	千葉賢	
経営情報システム論a	2	前学期水4	22.5	都島功	
コンピュータ動作論	2	前学期金1	22.5	城之内忠正	
情報と職業	2	前学期月2	22.5	井岡幹博	
情報ネットワーク論	2	後学期木2	22.5	佐脇豊	
ソフトウェア論	2	後学期金2	22.5	城之内忠正	
プログラミング科目	下記4科目から6単位以上を取得すること。				
プログラミング2	4	前学期木3・4	45.0	千葉賢	
データベースプログラミング	2	前学期木3	22.5	井岡幹博	
応用プログラミング	4	後学期木3・4	45.0	井岡幹博	
コンピュータグラフィックス	2	後学期木1	22.5	井岡幹博	
総時間数			270.0		

## 四日市学プログラム

このプログラムは、四日市在住の方や地域に関心がある方を対象に、3学部合同で開設するものである。

過去から現在まで、四日市のさまざまな姿を学ぶことができる講座である。

週に1～2日の来学で、1～2年程度で修得することが望ましい。

講習・科目等の名称	単位	開設時間	時間数	担当	備考
四日市公害論	2	後学期月2	22.5	播磨良紀ほか	
四日市の祭りと文化	2	前学期火2	22.5	岩崎 恭典	比較文化論c(人間と文化)を充当
四日市のNPO論	2	前学期金2	22.5	松井真理子	政治・行政論i(NPO論)を充当
地域経済を学ぶ	2	前学期木2	22.5	岡良浩	地域経済論を充当
四日市の地方鉄道	2	後学期火2	22.5	岩崎 恭典	組織経営論b(経営戦略論)を充当
四日市の歴史	2	後学期木4	22.5	播磨良紀	地域社会の歴史を充当
総時間数			135.0		

## 今後の計画

修了者の満足度は非常に高い教育コースです。より多くの皆様に履修証明プログラムを利用していただけると考えています。さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、大学ホームページをご覧ください。

**担当部門** : 四日市大学教学課

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : stsec@yokkaichi-u.ac.jp

## 5-6 社会人を受け入れる教育プログラム

### 活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、**社会人学生の受け入れ制度、科目等履修生制度、聴講生制度**を定めて運用してきました。これまでも多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

### 活動内容と実績

以下、各受入制度を説明します。

#### 1. 社会人学生（平成 24 年度在籍者数 15 名）

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」などのニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と授業の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度が「社会人入学」です。

##### ○社会人入試のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除。
- ・授業時にパソコンや英語をサポート。
- ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施。
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施。

##### ○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の者または文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方。
2. 満 23 歳以上の方。
3. 社会人経験を有する方。

##### ○選抜方法

- ・事前課題文（500 字～600 字）を提出し、試験日にその事前課題文をもとに面接、判定する。

○詳しくは四日市大学入試広報室にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

#### 2. 科目等履修生（平成 24 年度在籍者数 2 名）

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人等に特定科目の受講を許可するものです。興味・関心に合わせてひとつまたは複数の科目が選択でき単位修得（認定）が可能です。

##### ○出願資格等

- ・大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者としてします。
- ・選考は面接によります。前学期、後学期の2回募集を実施します。
- ・履修料は、入学金の他、履修科目及び単位数に応じた金額になります。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

### 3. 聴講生（平成 24 年度在籍者数 0 名）

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人等に特定科目の聴講を許可するものです。興味・関心に合わせてひとつまたは複数の科目が選択できます。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得（認定）は出来ません。

なお、聴講は全学共通教育科目の系列科目となります。

#### ○出願資格等

- ・大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者としてします。
- ・選考は面接によります。前学期、後学期の 2 回募集を実施します。
- ・聴講料は、入学金の他、聴講科目及び単位数に応じた金額になります。

## 今後の計画

今後も、多くの社会人学生の参加を期待しています。

---

**担当部門** : 四日市大学教学課

**連絡先** : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : stsec@yokkaichi-u.ac.jp

## 6. 調査研究

### 6-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

#### 活動の目的と経緯

本研究所は数学およびその周辺に関する研究・調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年に4月に発足しました。所長は上野健爾（京都大学名誉教授）、副所長は森本光生（上智大学名誉教授、元国際基督教大学学務副学長）、松本堯生（広島大学名誉教授）、小川東（本学環境情報学部教授）の3名です。研究員は所長、副所長を含み17名が在籍し、うち12名が研究員、5名が客員研究員となっています。研究所は科研費の間接経費や競争的資金により運営することになっています。

#### 活動内容と実績

各研究員の研究、社会連携活動は多岐にわたるので、ここでは研究所主催の活動をまとめておきます。

##### (A) 関孝和数学研究所文化講演会（2012年10月8日、四日市大学）

この講演会は広く数学文化を紹介する目的で開催しているもので、今回はフランスの数学者、アンリ・ポアンカレの没後100年を記念した講演などを行いました。講演は次の通りです。

- ①上野健爾「ポアンカレを読む」、②小川東「算木による計算」、  
③有田八洲穂「大人のほうがてこずる算数」

##### (B) 算数・数学教育フォーラム（2012年12月1日、じばさん三重）

小、中、高校の先生方と一緒に算数、数学教育を考えることを目的として、第2回のフォーラムを開催しました。講演は次の通りです。

- ①上野健爾「ある大学入試問題の背景」、②川越高校・浦田治「数学教育とわたし」、  
③暁学園・片岡一憲、伊藤俊雅「算数・数学教育の連携」、④有田八洲穂「身体知としての算数教育」

##### (C) 3.14数学文化シンポジウム（2012年3月16～17日、じばさん三重）

このシンポジウムは専門的な内容を含みますが、本研究所ではそのような活動も広く一般に開放しています。今回は「関の著作を巡って～書誌と数学～」 「関孝和研究の国際化」と二つのテーマを設けて4講演を行い、活発な専門的な議論が行われました。講演は次の通りです。

- ①小川東「はやわかり関孝和」、②小林龍彦『『発微算法』出版のなぞ—江戸時代の刊行数学書籍から見えるウラ事情』、③長田直樹「関孝和編の写本について」

#### 今後の計画

2013年度は研究所の主催事業として算数・数学教育フォーラム、3.14数学文化シンポジウムの開催を計画しています。講演会の案内をご希望の方はお電話またはメールでどうぞ。

研究員による社会連携企画への協力もします。また、中学校、高等学校への出張講義などにも対応しています。お問い合わせは研究機構（小川東）までメールでどうぞ。

**担当部門** : 関孝和数学研究所

**連絡先** : 四日市大学研究機構 電話 : 059-340-1927 メール : [skim@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:skim@yokkaichi-u.ac.jp)

## 6-2 四日市学研究会

### 活動の目的と経緯

四日市学研究会は、平成 17 年（2005 年）3 月から活動している学内研究会です。研究会の目的は、歴史的、自然的、文化的、社会的、経済的等々の様々な視点から幅広く四日市地域について学び、研究し、その研究成果を地域の再生と発展に寄与する参考情報として、蓄積し、公表してゆくことです。

研究会は、文化や歴史の特性、産業、中小企業、環境、都市計画等、四日市地域のいろいろな分野の現状を理解し、今後の地域の発展方向を考えていくために、大学から援助される活動資金を用いて講演会やシンポジウムを毎年、学内で実施してきました。それら講演会やシンポジウムの中で、特に記録しておくべき価値のあるものをブックレットにまとめて発刊してきました。

このブックレットは、四日市大学における地域学習分野の講義科目「四日市学」の授業でも、講義のテキストまたは副読本として用いられることが予定されていますし、同時にまた、ブックレットにまとめられた成果をできるだけ広く地域社会に公表してゆくため、四日市大学内、暁学園内はもちろん、学外関係団体や学生生徒保護者、さらには学外諸機関や一般市民の皆さんに対しても、希望者には現在までのところ、ブックレットを無料で頒布しています。

### 活動内容と実績

平成 24 年度は、12 月 7 日に学内で、「四日市学シンポジウム～四日市公害の真の克服をめざして～」を開催しました。第 1 部は、栗屋かよ子教授による「四日市公害と市民運動」と、栗田龍麿氏（現菰野町、乗得寺住職、元 NHK 記者）による「判決 40 年をすぎて思うこと」の講演が行われました。第 2 部では、この 2 名によるパネルディスカッションが会場の参加者とともになされました。参加者は、四日市公害語り部や環境保護運動関係者の方々や本学のゼミ生諸君らも合わせて約 80 名でした。会場からは活発な意見が出されました。

この講演会の内容は、年度末までにブックレットにまとめられ、『四日市学講座』第 8 号として発刊されました。

### 今後の計画

平成 25 年度も、研究会幹事会での検討を通じて適切なテーマを設定し、講演会またはシンポジウムを開催していく予定です。また、研究会によるブックレット発刊、頒布活動も引き続き継続していく方針です。



**担当部門** : 四日市学研究会

**連絡先** : 教学課（四日市学研究会事務局） 電話 : 059-365-6716 メール : oda@yokkaichi-u.ac.jp



## 6-3 十四川環境保全活動

### 活動の目的と経緯

四日市の垂坂、大矢知地区を水源とし、富田地区を横断して伊勢湾に流れる十四川は桜の名勝地として市民に親しまれています。近年、東名阪道や北勢バイパスの建設が進行し、利便性から住宅団地がスプロール的に進められ、倉庫やトラックターミナルなどの商業施設も多数建設されています。そして、これらの都市化にともなう生活排水等の流出による水質汚濁が進行し、十四川への影響が懸念されています。このため、四日市市富田地区自治会が中心となって十四川を守る会が結成され、植樹、花見イベントの開催、浄化剤投入、河川清掃など様々な活動を展開されています。この十四川を守る会からの依頼を受けて、本学教員3名が加わって平成23年度から合同河川調査を開始しました。

### 活動内容と実績

この調査結果から、十四川では極度の汚濁は認められないが、流量が少なく、生活排水の影響を受けやすいこと、水深が浅く、コンクリート3面張の構造であるため、水生生物が棲みにくいことなどが明らかにされました。また、河口部ではヘドロの堆積による悪臭の発生も認められました。この結果は地区自治会長らを対象にした説明会で発表し、周知に努めました。この他、河川清掃作業などのイベントに学生も参加し、地元住民の方々との交流も図りました。

### 今後の計画

次年度以降も引き続き水質調査を行ない、環境改善を地元との人とともに協働していく予定です。



十四川の風景



河川清掃活動

**担当部門** : 十四川の環境保全活動を行う教員有志（高橋正昭、武本行正）

**連絡先** : 環境情報学部教授 高橋正昭 電話 : 059-365-1639 メール : [takahasi@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:takahasi@yokkaichi-u.ac.jp)

## 6-4 鈴鹿山脈ブナ林調査(四日市大学研究機構・サステナビリティ研究所)

### 活動の目的と経緯

四日市大学自然環境研究会による現地調査により、朝明川源流部伊勢谷に面積約 21.5ha、株数 3000 本以上の広大なブナ林が存在することが判明しました。ブナ林は豊かな生態系を育むとともに、水源涵養林としても重要です。このブナ林は地球温暖化の影響で 2100 年までには消滅すると予想されており、現状のブナのデータを記録し、後世に残し、またデータを利用して保全活動を行うことには意義があります。

そこで、環境情報学部の教員有志が研究会と共同でブナ林保全の研究を開始することになりました。研究では、最初にブナ林の毎木調査等を実施し、GPS や GIS (地理情報システム) などの情報技術を活用してブナ林のデータベースを作成します。その後、群落調査や DNA 分析によるブナの由来調査などに進みます。また、近年急速に進展したスズタケの枯死の原因を探るために、シカの採食調査等を実施します。

### 活動内容と実績

平成 24 年度に学生とともに 5 回調査を実施し、約 540 本のブナのデータを取得しました。

### 今後の計画

本報告書の執筆時点(平成 25 年 8 月)で調査済みのブナ数は 3241 本に達し、ほぼ全域の調査を終えました。今後は群落調査と DNA 分析に移行します。また天然記念物指定も目指します。

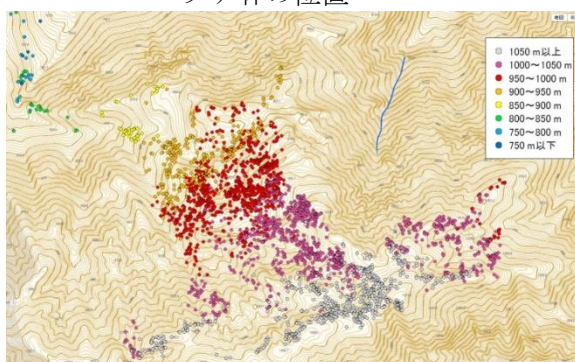
朝明川流域図



ブナ林の位置



Google Earth にプロットしたブナ位置



ブナの分布図(標高による色別)



ブナ調査の看板前で記念撮影

担当部門 : 四日市大学研究機構

連絡先 : 環境情報学部教授 千葉賢

電話 : 059-340-1620

メール : [chiba@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:chiba@yokkaichi-u.ac.jp)

## 6-5 モンゴル国ウランバートル市の環境リーダー育成事業

### 活動の目的と経緯

モンゴル国ウランバートル市では近年、急激な人口増加が発生しています。上下水道、暖房、道路交通などの整備が追い付かず、大気汚染、水質汚濁、ごみ処理などにおいて問題が生じています。特に冬期に石炭燃焼による煙、交通渋滞による車の排ガスにより極度の大気汚染が起こっています。この公害の発生は主に市民生活によるもので、市民が個々に改善していかなければなりません。その方策の一つとして環境リーダーを育成し、市民の中に環境改善への気運を高めていくことが重要と考えられます。環境情報学部の粟屋・武本・高橋教授は、(財)国際環境技術移転センター(ICETT)からの依頼を受けて、平成24年度からの3か年事業としてこの問題に取り組んでいます。

### 活動内容と実績

平成24年度はウランバートル市の大気汚染の現状調査、健康影響調査、大気汚染シュミレーションなどを行うとともに環境リーダーの拠点となる学校、市民組織を選定し、四日市公害の教訓、大気の簡易観測技術などについて講習を行いました。

### 今後の計画

平成25年度はリーダー候補者を日本へ招聘し研修を行うほか、現地での環境教育実践活動の支援を行う予定です。



ウランバートル市内で開催した環境講習会の風景



ゲル（住宅）煙突の煙調査風景

担当部門：環境情報学部

連絡先：環境情報学部教授 武本行正 電話：059-340-1621 メール：[takemoto@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:takemoto@yokkaichi-u.ac.jp)

## 7. 四日市大学に事務所を置く NPO 等

### 7-1 NPO 法人市民社会研究所

#### 活動の目的と経緯

NPO 法人市民社会研究所は、2004 年 11 月に設立された NPO で、「市民及び市民活動団体の成長による、力強くあたたかい市民社会づくり」を目指しています。

設立以来一貫して四日市大学の 9401 室を大学から賃借しており、2010 年から業務拡大に伴い、9402 室、9403 室も賃借しています。スタッフは全体で約 20 名ですが、このうち大学内で 5 人程度がフルタイムで働いています。四日市大学卒業生をこれまで 4 名雇用しており、そのうち 1 名は現在事務局次長として活躍しています。

#### 活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は、大別すると次の 4 つです。四日市市、三重県内の NPO と幅広い連携活動を行っています。平成 24 年 12 月に設立された一般財団法人ささえあいのまち創造基金のキックオフイベントにおいて、四日市大学学生が制作した市民活動紹介のパワーポイントを発表しました。

- ① 市民教育：人権のまちづくり、ディベート、新聞を使って学ぶ会、日本語講座など
- ② 市民活動の支援：NPO の支援、市民活動センターの指定管理など
  - \* 四日市市なやプラザ（四日市市市民活動センター）の事務局
  - \* NPO 法人四日市 NPO 協会の事務局
  - \* NPO 法人みえ NPO ネットワークセンターの事務局
  - \* 一般財団法人ささえあいのまち創造基金（人財ポケットを含む）の事務局
- ③ 若者の就労支援：北勢地域若者サポートステーション
- ④ ①～③に関する調査研究

#### 今後の計画

NPO の活動が大学生の成長や学習の支援につながるようにしたいと考えています。また市民活動のサポートを基盤とするネットワークと大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。



一般財団法人ささえあいのまち創造基金の設立（12 月）

**担当部門**：四日市大学総合政策学部

**連絡先**：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：[mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## 7-2 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会（以下、研究会）は、「地域から環境保全！環境教育（ESD）と循環型社会づくり」をテーマに、悪化する地球環境を足元から改善するための人づくりや、3Rに基づいた循環型社会形成事業を実施するなど、実践的な取組みを展開しています。

### 活動内容と実績

#### 【環境教育(ESD)】

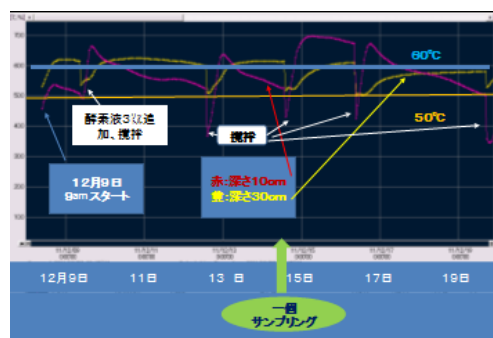
1. 四日市市環境学習センターからの委託で「地域環境リーダー養成講座：ステップアップエコカレッジ」を開催し、ステップアップエコカレッジ編 18 回で延べ 337 名、スキルアップ編 4 回で延べ 65 名、教員編 2 回延べ 55 名、バス視察研修も 4 回実施し、総勢 457 名の参加人数で開催しました。
2. 地域の子どもたちに農業体験事業「土を大切に、土と親しむ」をテーマに、南小松町の農園で 32 名の参加を得て開催しました。
3. 四日市市教育委員会の「環境教育の教材づくり：四日市公害」教材集の作成に協力しました。本教材は各学校へ配布されました。

#### 【循環型社会づくり】

1. 養鶏を核とする地域循環型社会形成事業「伊勢竹鶏物語～3R プロジェクト～」を拡大し、「地域ネット」立ち上げ、下野地区の NPO 団体と協議を続けました。結果的には、助成金が確保できないなどの予算面の問題があり、養鶏場建設を断念しました。しかし、本事業には各方面より問合せがあり、今後も地域発展のための循環型社会づくりを継続します。
2. 「電源を使わない黒ニンニクづくりの研究」に取り組みました。発砲スチロールの箱に、竹粉末、鶏糞、酵素、米ぬかを入れて、発酵熱を利用した黒ニンニクづくりに挑戦しました。



ステップアップエコカレッジの様子



黒ニンニク作りの実験データ

### 今後の計画

引き続き「環境教育（ESD）および循環型社会づくり」を基本柱として、積極的に情報発信し、地域による地域のための環境保全に取り組むことによって、より良い社会を実現するための活動を推進して参ります。例えば、休耕田を利用して、将来世代の子どもたちに農業の大切さ、命の大切さ、世界とのつながりなどを教えていきます。

担当部門：四日市大学エネルギー環境教育研究会

HP：<http://www.yokkaichi-ene.com/> 連絡先：info@yokkaichi-ene.com 矢口芳枝 090-5860-752

## 7-3 四日市大学自然環境教育研究会

### 活動の目的と経緯

地域の自然環境の保全活動と、自然環境を活かした環境教育を四日市大学と共同で推進するために、本研究会は誕生しました。地域に在住の動植物や昆虫等の専門家がメンバーとして加わっています。地域の自然愛好家の皆さんを主体とした「三泗自然を親しむ会」と共同で、各種の活動を実施しています。

### 活動内容と実績

研究会の活動の柱は次の3点で、平成24年度もこれらを中心に活動しました。

#### 1. 鈴鹿山脈ブナ林の調査と保全活動

調査研究のページにも記載がありますが、朝明川源流部伊勢谷にある広大なブナ林の毎木調査を行いました。平成24年度は5回の調査を実施し、約540本のブナのデータを取得しました。この活動には、菰野町が販売する飲料水「こもの清水」の売上金の一部が活用されています。

#### 2. いなべ市大安町のシデコブシ群落の保全活動

絶滅危惧ⅠB類（三重県）に指定されているシデコブシ群落自生地の保全活動を行っています。いなべ市大安町の群落は植林されたスギなどの高木に覆われ、また周辺林地の管理も悪く、低日照などのために個体数が激減しています。研究会では、員弁川水環境保全協議会の協力の下、自生地の環境改善に取り組んできました。個体に番号を付けて管理したり、周囲の藪を取り払ったりなどの活動を年に3回程度行って来ましたが、最近になり開花数が急速に増え、手ごたえを感じています。自生地は無数の地権者の所有地で、本格的な保全のためにはナショナルトラスト活動で地権をひとつに取りまとめる必要があります。いなべ市と協力しながら、この活動も推し進めます。

#### 3. 特定外来生物アレチウリの駆除活動

内部川を中心に、年1回（7月）の駆除活動を5年間続けてきました。毎回、200名程度の市民が参加していますが、その効果で、内部川のアレチウリは顕著に減少傾向にあります。この活動は国交省と内部地区社会福祉協議会の共同事業で行っています。



大安町のシデコブシ群落で行われた説明会



内部川でのアレチウリ駆除の様子

### 今後の計画

朝明川源流部のブナ林の調査を継続するとともに、菰野町と協力して天然記念物指定を目指します。大安町のシデコブシ群落の保全活動、内部川のアレチウリの駆除にも継続的に取り組みます。

**担当部門**：四日市大学自然環境教育研究会

**連絡先**：研究会代表 保黒時男 電話：090-5863-7988 メール：hoguronature@m5.cty-net.ne.jp

## 7-4 四日市東日本大震災支援の会

### 活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興・復旧のために、四日市大学が中心となって、学生・教職員・一般市民とともに東北で災害ボランティア活動を行っています。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合にはボランティアを派遣できるよう、体制を維持しています。

本会は、震災発生直後の2011年3月下旬に災害ボランティアを派遣するための体制づくりの検討に入り、4月1日に立ち上げました。そして、5月2日より宮城県社会福祉協議会を通じてボランティア・バスパックの制度を利用し、ボランティアが不足していた東松島市に学生を中心とする第1回派遣を行いました。その後、同様の制度を利用するなどし、継続的に東松島市の復旧・復興のための活動を行っています。

- ★赤い羽根共同募金の災害ボランティア・NPO活動サポート募金より助成金をいただいています。
- ★四日市市社協が主催する、チーム四日市より活動助成を受けています。

### 活動内容と実績

災害直後は、個人宅の片付け・ドロかき・清掃、生活道路の側溝のドロかきを、仮設住宅での生活が始まった段階からは交流促進のためのイベントを開催してきました。2013年3月までに合計16回、延べ650名ほどのボランティア派遣を行いました。この間、三重県の東紀州の水害で紀宝町へ2回、四日市市内の水害被害でも災害ボランティアを派遣しました。また、現地の高校生・大学生と支援のあり方について考えるワークショップを開催し、仮設住宅での交流についても協働で行うなど、現地の若者との連携も行っています。

### 今後の計画

宮城県東松島市の仮設住宅での交流イベント開催（1年に数回のペースを計画しています）が活動の中心となる予定です。松島市は恒常的にボランティアが不足しており、宮城県社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターから東松島市への派遣の要請を受けたのが、本会とこの地域との関わりの始まりです。その活動で関わった多くの被災者や社会福祉協議会などとの「絆」をベースに、今後は被災者の心のケアを中心に活動していく予定です。



**担当部門** : 四日市東日本大震災支援の会

**連絡先** : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

## 7-5 メディアネット四日市

### 活動の目的と経緯

社会システムのあらゆる分野で情報化が進展し、ソーシャルメディアの領域でも多メディア化、多チャンネル化、放送と通信の融合などが起きています。これは市民の情報入手、多様な伝統や文化の表現と相互理解、錯綜する諸問題の討論による解決や共同意志の決定、ひいては公平な市民社会の形成などに大いに寄与すると考えられます。

メディアネット四日市が発足し活動も10年を迎えますが、ソーシャルメディアの利用も日本においてはまだまだ揺籃期の過程にあります。メディアと視聴者の双方向化の実現にはまだ時間を要しますが、その進展には着実な展望があります。

従来、日本の良き風土として生活、労働、文化を共有してきたコミュニティや、誰もが自由に発言・表現・交流できる広場（パブリック・フォーラム）が消滅してゆこうとしています。かかる現状を打破すべく時流に乗ったメディアを駆使し、広く市民に参加を求める運動を普及することに当会のミッションがあります。

### 活動内容と実績

当会は映像ポータルサイト「よっかいち映像広場」を立ち上げ、このサイトを通じて四日市のイベント・文化・伝統、四日市に拠点を置く市民活動団体、各地域のまちづくり、催物等の紹介を行っています。また、四日市大学に所属する社会連携団体等の活動も取り上げ、情報発信を行っています。このサイトは四日市で唯一最大の市民が提供する映像のパブリック・フォーラムで、400本以上の動画を掲載しています。また、四日市の地域住民に対する「市民映像講座」も年1回、10年間継続し、映像文化普及のための活動も実施してきました。

### 今後の計画

地域を良くし、世の中を良くするのは健全な思想と弛まぬ努力です。特に青年の熱き情熱を地域づくりに参画させるための教育・民主化が必要です。当会のミッションに基づき今後も継続的に活動を続けて参ります。



担当部門 : メディアネット四日市

連絡先 : 久保田領一郎 電話 : 059-329-6020 メール : medianet@aurora.ocn.ne.jp



## 8. 今後への展望

### 8-1 四日市大学社会連携センターについて

冒頭で紹介したように、四日市大学は平成 24 年度末に、社会連携活動の企画・運営・報告を行うとともに、社会連携活動に関する学外との窓口となる、「社会連携センター」を設置することを決定しました。既存の四日市大学研究機構、地域連携担当、コミュニティ・カレッジ、新設のボランティアを 4 つの部門とし、地域との連携を一元的に推進する役割を担うことになっています。

四日市大学はこれまでさまざまな地域連携活動を行ってきましたが、個々の活動には高い評価をいただいても、ともすれば個々の教員や担当部署の活動にとどまり、大学としての一体的な推進力に欠けるところがありました。このような反省を踏まえ、2 年前から本書の作成に取り組み、四日市大学の地域連携活動の「見える化」に取り組んできたところです。社会連携センターの設置はこれをさらに進め、対外的な地域連携の窓口となることはもとより、学内の地域連携に関わる諸活動の連携も目指すものとして、地域に根差した大学としての方向性を、学内外に表明したものといたします。

四日市大学は北勢地域における唯一の大学であり、まさに「地（知）の拠点」です。多様な地域課題が山積している今日、3 つの学部の専門的知識を有する教員群、若くてエネルギーにあふれている学生たちは、地域における資源の宝庫です。地域の課題解決にこれらの資源を積極的に生かすことは時代の要請でもあり、大学の教育研究の発展にもつながります。また超高齢時代を迎えて、社会人学生や科目等履修生、コミュニティカレッジなど、生涯学習の場としての大学の魅力も大きいものがあります。

四日市大学社会連携センターは、このような大学の資源を地域に生かすとともに、地域を教員・学生の教育研究のパートナーとして捉えたいと思います。本学が地域に貢献することで地域社会が発展し、また地域によって若い学生たちや教職員が育てられる相互関係の要となることが、社会連携センターの使命であると確信しています。

地域連携センターは、これらの任務を果たすため、これまでの社会連携活動を基盤としながら全学的な推進体制を構築し、地域に愛される大学となるよう活動を進めていきます。

●.....●  
**本項担当** : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : [mariko@yokkaichi-u.ac.jp](mailto:mariko@yokkaichi-u.ac.jp)

## おわりに

平成 24 年度の社会連携活動は、目次に示しましたように幾つもの分野で活発に行われ、それらの多くに地域の皆様方が直接あるいは間接的に関わって頂きました。また、ケーブルテレビ四日市（CTY）や新聞等でも活動の内容を多々紹介して来ました。

四日市大学は高等教育機関であり、長期的に見て卒業生たちが地域の活性化・発展に貢献できて始めて評価されるものであります。社会連携活動は、地域からお預かりしている学生諸君が地域の方々や企業、NPO 等と直接・間接的に関わることにより、地域の課題に直接触れ、共に汗をかきながら卒業後社会に出たときの自らを描ける機会を提供し、もって一層の勉学の目標を得られるようにしようというものでもあります。

地域にとっても本学の社会連携活動が意味あるものに発展していくことを念じております。

研究機構長・環境情報学部教授 新田義孝

## 資料編 学外委員会での活動（委員会名・役職名のリスト）

この資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあり、それらについては自己点検報告書をご覧ください。

氏名	派遣先	内容
宗村 南男	四日市商工会議所	四日市・天津経済交流センター委員
	財)四日市市まちづくり振興事業団	理事
	三重県私学協会	三重県私学協会評議員
	財)三重県私立学校教職員退職基金財団	三重県私立学校教職員退職基金財団理事長
	三重県私学総連合会	三重県私学総連合会理事
	三重県私立大学高専協会	三重県私立大学高専協会 理事・会長
	社)三重県社会福祉協議会	三重県福祉人材センター運営委員会委員
	国際環境技術移転研究センター	評議員
	三重県	美し国おこし・三重実行委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	三重県	第76回国民体育大会三重県準備委員会委員
	四日市北ロータリークラブ	名誉会員
永戸 正生	財)三重県環境保全事業団 国際規格審査登録センター	品質マネジメントシステム判定委員会委員
	財)三銀ふるさと文化財団	評議員
	日本高等教育評価機構	評価員
池山 弘	愛知県	愛知県史編さん委員会近代史政治行政部会調査執筆委員
	名古屋市	新修名古屋市史資料編編纂専門委員
岡 良浩	三重県	三重県開発審査会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県北勢地域地場産業振興センター	評議員
杉谷 克芳	鈴鹿市	鈴鹿市建築審査会委員
柴田 啓文	桑名市	桑名市差別撤廃審議会委員
鶴田 利恵	四日市市	四日市市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員
	三重県	三重県都市計画審議会委員
	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
	桑名市	桑名市上水道事業計画等策定アドバイザー会議 アドバイザー
	愛知県	愛知県地価調査会議委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営調査会委員

	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
岩崎 祐子	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会委員
	伊勢市	伊勢市指定金融機関選定委員会委員
	三重県	三重県職業能力開発審議会委員
	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会情報公開審査会委員
沓掛 和男	四日市市	四日市市固定資産評価審査委員会委員
	三重県	三重県選挙管理委員会委員
播磨 良紀	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	四日市市立博物館	四日市市立博物館協議会委員
	四日市市立図書館	四日市市立図書館協議会委員
	桑名市	桑名市文化財保護審議会委員
	三重県	三重県史編さん専門委員
	古座町教育委員会	古座町史編纂委員会委員
	愛知県	愛知県史編纂委員会委員
	豊田市	新修豊田市史編さん古代・中世部会執筆委員
栗屋 かよ子	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県公害事前審査会委員
	三重大学	女性研究者連携協議会メンバー
高橋 正昭	三重県	四日市市大矢知・平津産業廃棄物不適正処理事案に係る地元住民とのリスクコミュニケーション等助言指導
	三重県	総合評価一般競争入札に係る落札者決定基準等の確認作業委員
	三重県下水道公社	評議員
	宮崎大学	農林水産政策実用技術開発事業推進会議外部委員
新田 義孝	津幡町	石川県津幡町科学のまち推進委員会委員 委員長
	津幡町	石川県津幡町政策アドバイザー
武本 行正	四日市市	四日市市環境保全審議会委員
	財) 三重県工業技術振興機構	みえ新産業創造・交流会(環境分野・情報分野)部会員
	三重県	伊勢湾学セミナー設置運営懇談会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公害審査会委員
	三重県	三重県公害事前審査会委員
	三重県	三重県自動車排出窒素酸化物等総量削減計画策定協議会委員
	いなべ市	いなべ市水道水源保護審議会委員
	いなべ市	いなべ市環境審議会委員
	日本雨水資源化システム学会	日本雨水資源化システム学会評議員
	人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	共同研究員
千葉 賢	三重大学	大学院生物資源学研究科附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員

田中 正明	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員
	三重県	三重県生活環境の保全に関する条例第95条に規定する専門委員
	三重県	三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例並びに廃棄物の処理及び清掃に関する法律に規定する専門委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県環境審議会専門委員
	財)三重県環境保全事業団	廃棄物処理センター事業安全管理委員会委員
	国土交通省中部地方整備局	設楽ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会委員
	財)ダム水源環境整備センター	ダム環境放流研究会委員
	日本珪藻学会	運営委員、編集委員
前川 督雄	科学技術政策研究所	科学技術動向研究センター専門調査員
本部 賢一	四日市市	四日市市開発審査会委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
	中部地方整備局	総合評価委員会三重県地域部会委員
田中 伊知郎	独)日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員
	文部科学省	科学研究費補助金における評価に関する委員会 評価者
牧田 直子	三重県	三重県環境審議会委員
	三重大学	女性研究者連携協議会メンバー
岩崎 恭典	四日市市	四日市市政策評価検証委員会委員長
	四日市市	ばんこの里会館あり方検討会委員長
	桑名市	桑名市就学前施設再編検討委員会委員長
	伊勢市	伊勢地域公共交通会議副委員長
	伊勢市	伊勢市駅前再生検討委員会委員長
	伊勢市	伊勢市まちづくり市民会議アドバイザー
	亀山市	亀山市まちづくりの基本条例推進委員会委員長
	鳥羽志勢広域連合	総合評価落札方式技術審査会委員
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	伊賀市	伊賀市自治基本条例推進研究会アドバイザー
	伊賀市	伊賀市まちづくり委員会委員
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	いなべ市・東員町	旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン懇談会委員
	東員町	東員町行財政検討委員会委員長
	東員町	地域公共交通会議委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会委員長
	菰野町	町政円卓会議委員
	三重県教育委員会	三重県教育委員会委員
	三重県	ごみゼロプラン推進委員会委員
三重県	三重県新しい公共支援事業運営委員会委員	

	三重県	南部地域活性化推進協議会委員
	三重県	NPO 活動基盤強化事業運営委員
	北名古屋市	北名古屋市行政改革推進委員会委員
	北名古屋市	協働指針策定委員会アドバイザー
	津島市	協働のまちづくり基本方針策定委員会委員長
	小牧市	自治条例間のあり方研究会議アドバイザー
	岩倉市	行政経営プラン推進委員会
	岩倉市	自治基本条例検討委員会アドバイザー
	三好市	三好市まちづくり条例策定審議会委員
	東浦町	事業仕分け委員会委員長
	神戸市	神戸市施策外部評価委員会委員
	東近江市	東近江市行政改革推進委員会委員
	米原市	米原市行財政改革市民会議委員長
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員長
	豊中市	豊中市地域自治システム調査検討委員会委員長
吉村 壽夫	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県文化振興事業団	第 64 回みえ県展運営委員
	桑名市	桑名市都市計画審議会会長
	桑名市	桑名市水道水源保護審議会委員
	桑名市	桑名市地域政策審議会会長
	桑名市	桑名市環境審議会委員
松井 真理子	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会委員
	亀山市	亀山市協働事業提案制度あり方検討委員会委員
	亀山市	亀山市協働事業選定委員会委員
	亀山市	亀山市市民参画協働事業推進補助金選定委員会委員
	三重県	三重県収用委員会委員
	三重県	定時制通信制高等学校北部地域連絡会議委員
	三重県	三重県人権施策審議会委員
	南伊勢町	南伊勢町人権施策審議会委員
	愛知県	委託団体選定員会委員
	愛知県	新しい公共支援事業運営委員会委員
	全国市町村国際文化研修所	教科問題懇談会委員
	中部地方環境事務所	中部環境パートナーシップオフィス運営会議委員
	CTY	番組審議委員会委員
鬼頭 浩文	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
	四日市市	こころのケア 春の四日市支援隊
小林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員
	四日市市	四日市地域審議会委員

三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴取会委員
三重県	三重県事業認定審議会委員
三重県	集落支援モデルの構築事業にかかる現地協議での助言、大学生等のとりまとめ
鈴鹿市	鈴鹿市公の施設の指定管理者選定委員会会長
桑名市	桑名市上水道事業計画等策定アドバイザー会議 アドバイザー
津島市	津島市公の施設等のあり方検討会委員
財) 三重北勢地域地場産業振興センター	評議員選定委員会委員
四日市とんてき協会	代表
エフエムよっかいち(株)	番組審議委員会委員

## 平成 25 年度後半の四日市大学各種行事予定

四日市大学は地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放しています。「きちんと学びなおして自分を高めたい」「仕事や子育てもひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」「市民活動に参加するための知識を得たい」などの目標を持った多くの方々が、本学の生涯学習プログラムに参加されています。

現在、下記のとおり各種講座等を用意しています。

2013/08/08 現在

月	日	曜日	内 容
9 月	25 日	水	経済学特殊講義（経済学部准教授 谷崎智子）
	28 日	土	オープンキャンパス
10 月	9 日	水	経済学特殊講義（経済学部教授 小森久衛）
	23 日	水	経済学特殊講義（経済学部教授 小森久衛）
	26 日	土	大学祭・オープンキャンパス
	27 日	日	大学祭
	30 日	水	経済学特殊講義（経済学部教授 李修二）
11 月	13 日	水	経済学特殊講義（経済学部教授 李修二）
12 月	4 日	水	経済学特殊講義（経済学部准教授 柴田啓文）
	7 日	土	オープンキャンパス
	11 日	土	経済学特殊講義（経済学部准教授 柴田啓文）
	30 日	土	オープンキャンパス

※関孝和数学研究所文化講演会は開催予定だが、日程は未定。

### 【コミュニティカレッジ】

現在開講している講座内容は、写真講座・絵画・三味線・社交ダンス・話し方・デジカメ・パソコン・英会話・中国語広東語・韓国語・ドイツ語・スペイン語・フランス語です。詳細は、コミュニティカレッジ HP もしくは事務局までお問い合わせください。

開講月	申込期間	開講期間
2013 年 9-10 月講座	7 月 30 日～8 月 20 日	9 月 3 日～10 月 12 日
2013 年 11-12 月講座	10 月 1 日～10 月 22 日	11 月 2 日～12 月 14 日
2014 年 2-3 月講座	12 月 24 日～1 月 14 日	1 月 28 日～3 月 11 日（予定）



**四日市大学社会連携報告書 平成 24 年度版**

制作 四日市大学社会連携センター